

令和7年6月3日

中期目標・中期計画に係る令和6年度自己点検・評価結果について

大学評価委員会

1. 目的

「国立大学法人香川大学中期目標・中期計画に係る点検・評価規程」第3条及び「国立大学法人香川大学中期目標・中期計画に係る自己点検・評価実施要項」第2に基づき、中期目標・中期計画（以下「中期計画等」という。）を所掌する理事、副学長又は部局等の長（以下「理事等」という。）が行った令和6年度の中期計画等に係る進捗状況の自己点検・評価について、当該点検結果の検証を行う。

2. 自己点検・評価結果の検証結果

理事等から提出された自己点検・評価書に基づき、中期計画等に対する実施状況・成果や各評価指標に対する実績等を確認し、点検結果の検証を行った。

自己点検・評価が適切に実施されており、令和6年度自己判定が妥当である旨、確認した。

3. 改善を要する事項

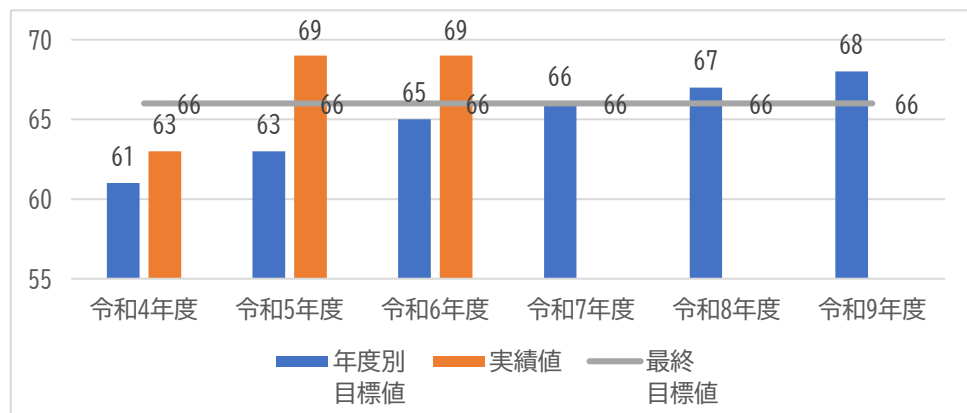
なし。

令和6年度 自己点検・評価結果について

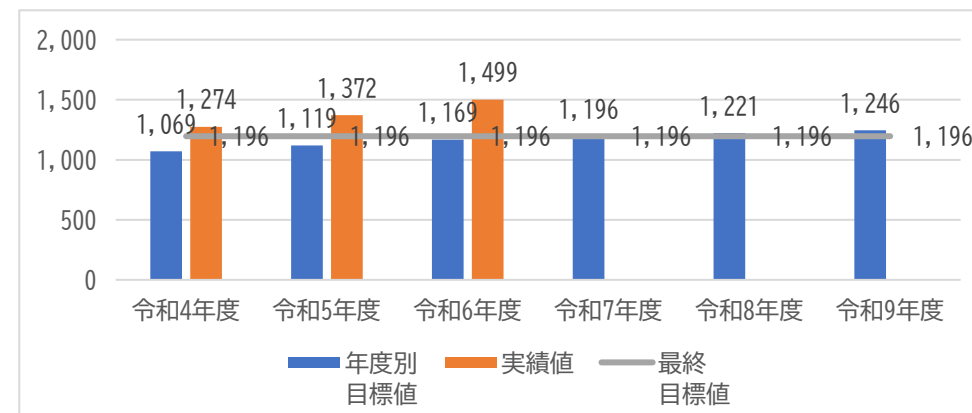
中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 1 社会との共創 (1) 人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①
中期計画	1-1 地域社会の活性化と魅力化に向け活躍できる人材を育成するため、地元自治体や企業、県内外の大学等と連携し、地域の特性を活かした多様な学生参加型実践教育プログラムを展開する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	学生参加型実践教育プログラムの実施件数及び参加人数のいずれについても、目標値を上回ったこと、「地域活動MAP」の更新が、適切に実施されている等の実績から、「(Ⅲ) 計画を実施している」と評価した。

(参考) 評価指標達成状況

a. 地域と連携した学生参加型実践教育プログラムの実施件数
(令和9年度における実施件数を令和3年度実績(60件)と比べて10%増加)



b. 地域と連携した学生参加型実践教育プログラムの参加学生数 (令和9年度における参加学生数を令和3年度実績(1,040人)と比べて15%増加)



令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 1 社会との共創 (1) 人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①
中期計画	1-1 地域社会の活性化と魅力化に向け活躍できる人材を育成するため、地元自治体や企業、県内外の大学等と連携し、地域の特性を活かした多様な学生参加型実践教育プログラムを展開する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	学生参加型実践教育プログラムの実施件数及び参加人数のいずれについても、目標値を上回ったこと、「地域活動MAP」の更新が、適切に実施されている等の実績から、「(Ⅲ) 計画を実施している」と評価した。

(参考) 評価指標達成状況

c. 可視化した実績データに基づく地域関係者による外部評価を毎年度実施し、評価結果を公表する。

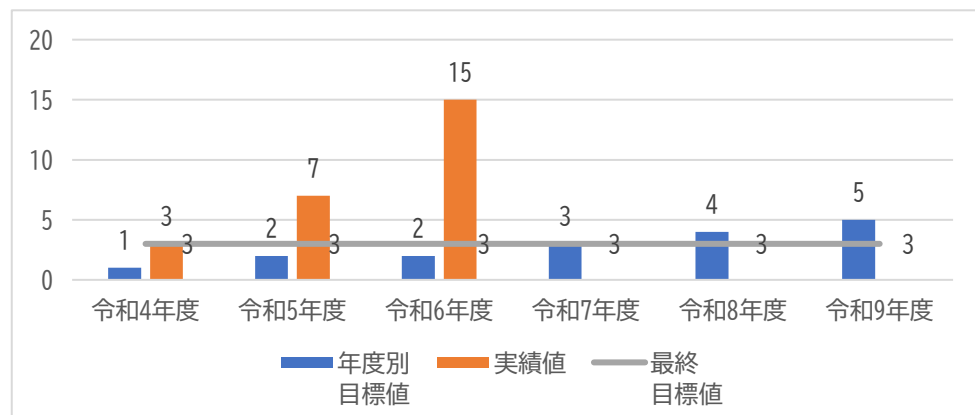
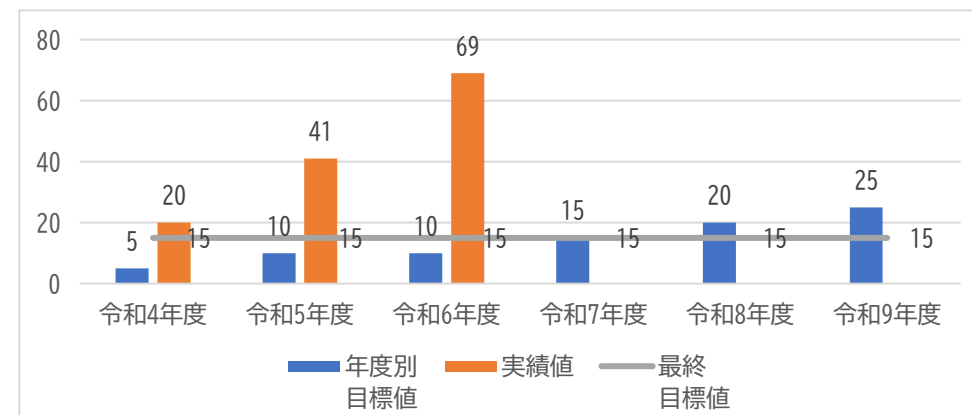
(令和6年度 実施内容)

上記の実績をとりまとめ、諮問会議に上程し、いただいた提案・意見をR7年度の計画に反映させる。

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 1 社会との共創 (1) 人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①
中期計画	1-2 地域社会における課題解決や持続的な活力づくりに資するため、産官学の連携の下で、大学が核となる地域課題解決指向型共創プロジェクトを展開する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	地域課題解決指向型共創プロジェクトの新規実施件数及び参加人数のいずれについても目標値を上回ったこと、引き続き産業界、自治体と連携した事業実施を推進している等の実績から、「(Ⅲ) 計画を実施している」と評価した。

(参考) 評価指標達成状況

a. 地域課題解決指向型共創プロジェクトの実施件数
(第4期中に新たに実施した件数3件以上)b. 地域課題解決指向型共創プロジェクトに参加した教職員数
(第4期中に新たにプロジェクトに参加した教職員数15人以上(延べ数))

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 1 社会との共創 (1) 人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①
中期計画	1-2 地域社会における課題解決や持続的な活力づくりに資するため、産官学の連携の下で、大学が核となる地域課題解決指向型共創プロジェクトを展開する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	地域課題解決指向型共創プロジェクトの新規実施件数及び参加人数のいずれについても目標値を上回ったこと、引き続き産業界、自治体と連携した事業実施を推進している等の実績から、「(Ⅲ) 計画を実施している」と評価した。

(参考) 評価指標達成状況

c. 可視化した実績データに基づく地域関係者による外部評価を毎年度実施し、評価結果を公表する。

(令和6年度 実施内容)

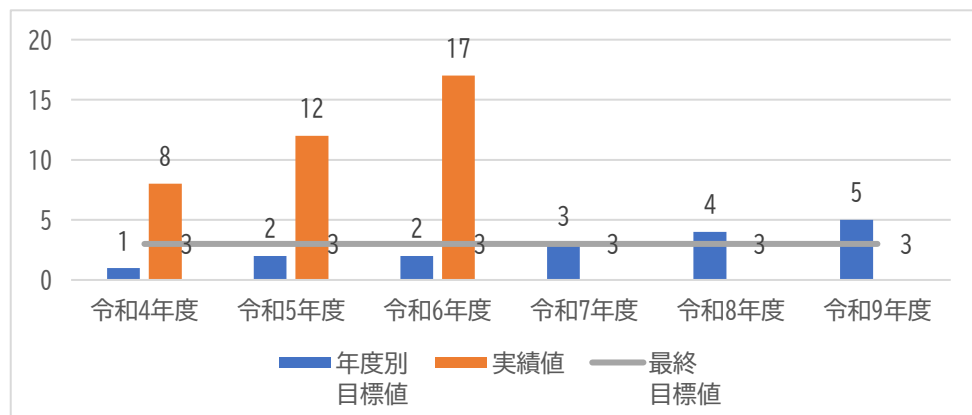
上記の実績をとりまとめ、諮問会議に上程する予定としており、R7年度の計画に反映させる。

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 1 社会との共創 (1) 人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①
中期計画	1－3 SDGsに関する全学的な推進体制を整備し、アクションプランを策定するとともに、活動経費の支援を行い、地域課題の解決に資する取組を推進する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	学長戦略経費を用いて地域課題解決に繋がるSDGsの取組を後押しする「SDGs加速推進経費（地域課題解決型）」の学内公募制度を実施したこと、取組7件（新規5件、継続2件）を選考し財政支援を行ったことから、「(Ⅲ) 計画を実施している」と評価した。

(参考) 評価指標達成状況

a. 地域課題の解決に資するSDGsの取組の実施件数
(第4期中に新たに実施した件数3件以上)



b. 可視化した実績データに基づく地域関係者による外部評価を毎年度実施し、評価結果を公表する。

(令和6年度 実施内容)

①教職員・学生の取組み等について、随時Webで公開するとともに、SDGsアクションプランにおいて3つの重点領域とそれに繋がる推進課題・推進プロジェクトとして設定した事業について、令和6年度の取組内容及び令和7年度の実施計画をとりまとめ、こちらもWebにて公開している。

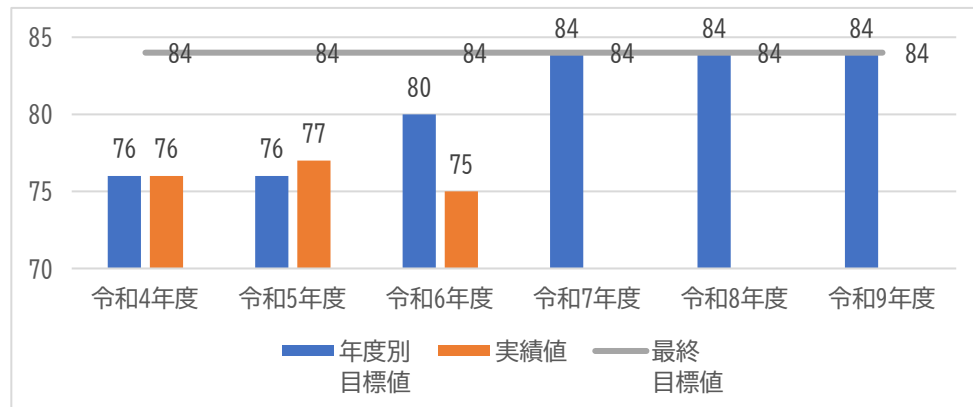
②上記の実績をとりまとめ、諮問会議に上程する予定としており、R7年度の計画に反映させる。

令和6年度 自己点検・評価結果について

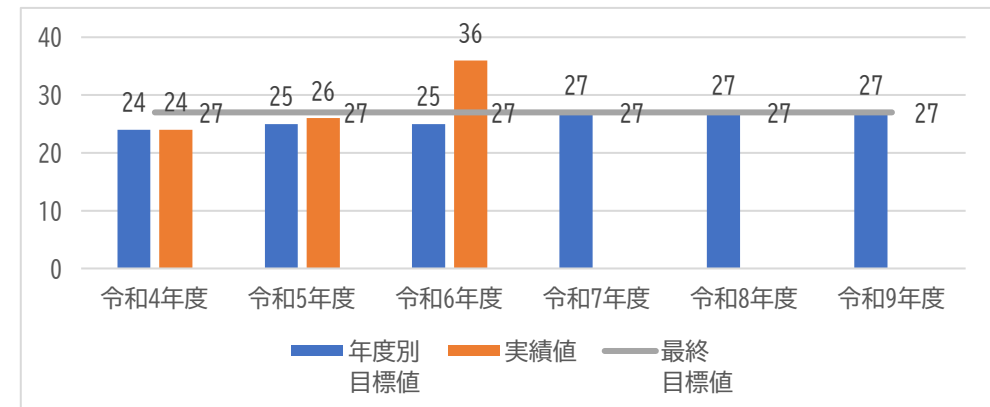
中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (1) 特定の専攻分野を通じて課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程)⑥
中期計画	1-1 特定の専攻分野はもとより、学士課程教育全体を通じて、課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるため、特に本学が力を入れて取り組んでいるDRI（デザイン思考、リスクマネジメント、インフォマティクス（数理・情報基礎））教育を拡充するとともに、学修成果の可視化に取り組む。
令和6年度自己判定	(Ⅱ) 計画を十分には実施していない
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	a：D科目の数は今年度の目標値を下回っている。R科目は最終的な目標値を超え、I科目は最終的な目標値に達している。 D科目の数を増加させるため、全学共通科目においては、すでに運用を始めているD科目（特に学生主導の課題探求型科目）の数を主題科目を中心に増加させるためFDプログラム（オンデマンド型）に、スタンダード版とアドバンスト版の種類を作成し、幅広く受講を促すようにした（R7の主題科目担当者から利用開始）。また学部専門科目においては、今年度の試行状況を確認し、次年度の本格実施に向けて全学教務委員会を通じてDRI科目の増加を各学部強く促した。 b：7月29日にデザイン思考教育、リスクマネジメント教育、インフォマティクス教育のアセスメントテストを行った。1年次生の受験率は約9割であり、安定的・持続的な実施体制が整えられている。 ただし、受験率は少し下がっている部局があったので、次年度に新入生ガイダンスでの周知を徹底することを決定した。

(参考) 評価指標達成状況

a-1. D科目に係る授業科目数（令和9年度の科目数を令和4年度の科目数（76科目）と比べて10%増加）



a-2. R科目に係る授業科目数（令和9年度の科目数を令和4年度の科目数（24科目）と比べて10%増加）

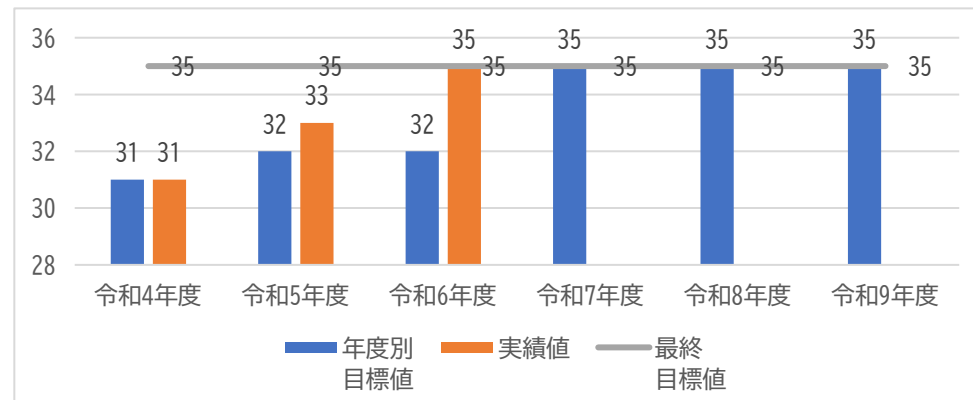


令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (1) 特定の専攻分野を通じて課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程)⑥
中期計画	1-1 特定の専攻分野はもとより、学士課程教育全体を通じて、課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるため、特に本学が力を入れて取り組んでいるDRI（デザイン思考、リスクマネジメント、インフォマティクス（数理・情報基礎））教育を拡充するとともに、学修成果の可視化に取り組む。
令和6年度自己判定	(Ⅱ) 計画を十分には実施していない
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	a：D科目の数は今年度の目標値を下回っている。R科目は最終的な目標値を超え、I科目は最終的な目標値に達している。 D科目の数を増加させるため、全学共通科目においては、すでに運用を始めているD科目（特に学生主導の課題探求型科目）の数を主題科目を中心に増加させるためFDプログラム（オンデマンド型）に、スタンダード版とアドバンス版の種類を作成し、幅広く受講を促すようにした（R7の主題科目担当者から利用開始）。また学部専門科目においては、今年度の試行状況を確認し、次年度の本格実施に向けて全学教務委員会を通じてDRI科目の増加を各学部強く促した。 b：7月29日にデザイン思考教育、リスクマネジメント教育、インフォマティクス教育のアセスメントテストを行った。1年次生の受験率は約9割であり、安定的・持続的な実施体制が整えられている。 ただし、受験率は少し下がっている部局があったので、次年度に新入生ガイダンスでの周知を徹底することを決定した。

(参考) 評価指標達成状況

a-3. I科目に係る授業科目数（令和9年度の科目数を令和4年度の科目数（31科目）と比べて10%増加）



b. DRI教育のアセスメントテスト等を実施することにより、その学修成果を可視化する。デザイン思考教育については第4期開始時に指標を検討し、リスクマネジメント教育とインフォマティクス教育については第3期中に作成したアセスメントテストを令和4年度から実施する。令和5年度にポートフォリオシステムに反映する。

(令和6年度 実施内容)

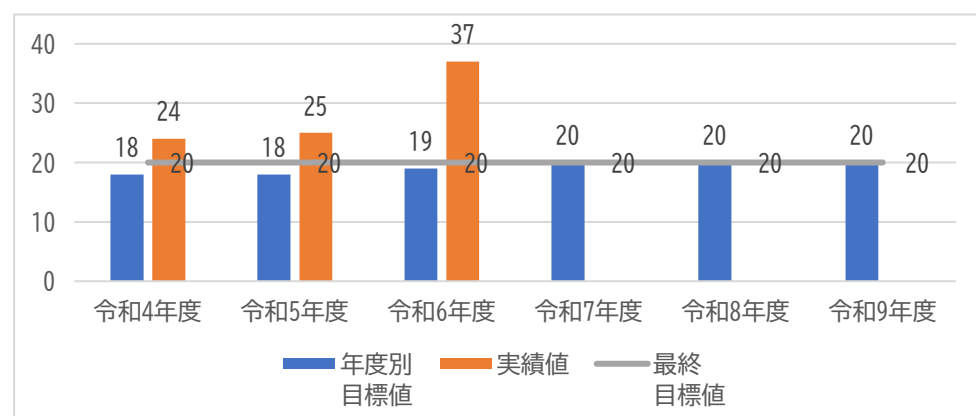
7月29日にデザイン思考教育、リスクマネジメント教育、インフォマティクス教育のアセスメントテストを行ったことが挙げられる。1年次生の受験率は85%と前年同様約9割を維持しており、安定的・持続的な実施体制が整えられているといえる。
リスクアセスメントのコンテンツに「化学物質のリスク」を加え、他にも現状に合わなくなったコンテンツの廃止などとあわせて検討を加えた。インフォマティクスについては、来年度より高等学校の科目「情報I」の必修化に対応するため、大幅改定を予定している。下半期に具体的な作業プランをたて、作業を進めている。
また、アセスメントテストの受験率向上のために、次年度の新入生ガイダンスでの周知を行う準備をする。
そのほか、新教務システム上での成果の可視化については、今年度後期からの運用を開始した。

令和6年度 自己点検・評価結果について

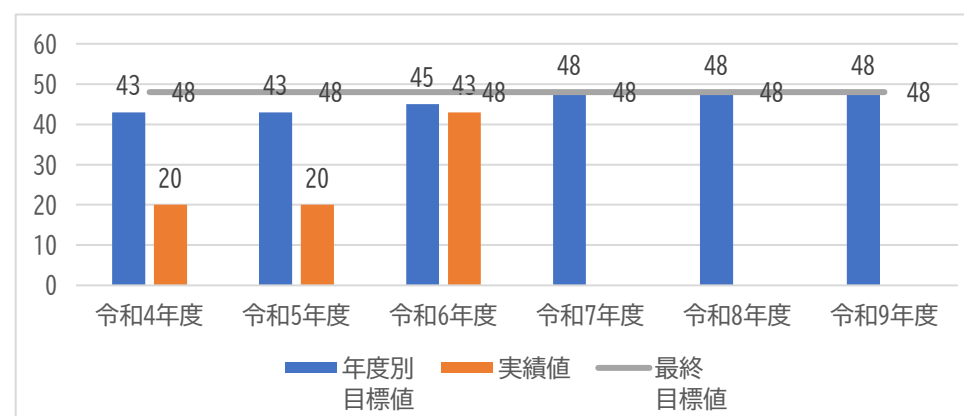
中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (1) 特定の専攻分野を通じて課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程)⑥
中期計画	1－2 特定の専攻分野以外の知見にも触れることで幅広い教養を身に付けさせるため、学士課程教育全体を通じて異なる分野について学ぶ機会を拡充する。
令和6年度自己判定	(Ⅱ) 計画を十分には実施していない
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	(1) 分野横断型科目は、最終的な目標値を大きく上回っている。実質的には分野横断型科目であるが可視化されていないものを減らすために、シラバス記載時に分野横断型科目についての自己診断をおこない、該当する場合はその旨シラバスに記載する、という仕組みを作った。 (2) 他学部履修科目登録者数は、前年度と比較すると倍増したものの、目標値に届かなかった。昨年度の全学教務委員会における合意に基づき、各学部が全学共通科目高度教養教育科目で学部提供科目として提供可能なものをリストアップしている。次年度より、学部提供科目が大幅に増える予定である。これに合わせて、この科目の履修を促すパンフレット、動画を作成し、当該科目の履修手続き方法を簡略化することを決定した。 (3) ネクストプログラム履修登録者数は目標値を大幅に上回っている。今年度は、前年度の調査を踏まえて、ガイダンスの方法を対面形式へと変更した。また、新規プログラムとして「危機管理学×数理・データサイエンス・AI教育特別プログラム」を開設し、次年度より「グローバル人材育成プログラム(韓国語)」の開設することを決定した。

(参考) 評価指標達成状況

a-1. 異なる分野について学ぶ分野横断型授業科目の授業科目数(令和9年度実績を令和3年度実績(18科目)と比べて10%増加)



a-2. 異なる分野について学ぶ他学部履修科目の履修登録者数(高度教養教育科目を含む)(令和9年度実績を令和3年度実績(43人)と比べて10%増加)

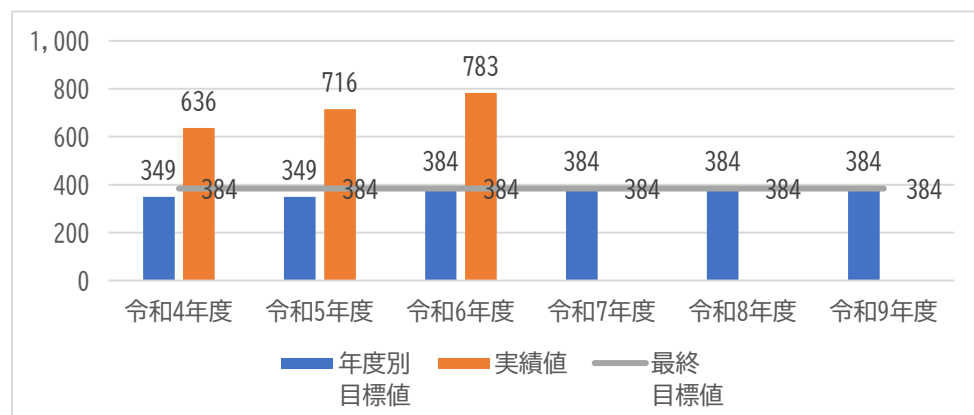


令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (1) 特定の専攻分野を通じて課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程)⑥
中期計画	1－2 特定の専攻分野以外の知見にも触れることで幅広い教養を身に付けさせるため、学士課程教育全体を通じて異なる分野について学ぶ機会を拡充する。
令和6年度自己判定	(Ⅱ) 計画を十分には実施していない
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	(1) 分野横断型科目は、最終的な目標値を大きく上回っている。実質的には分野横断型科目であるが可視化されていないものを減らすために、シラバス記載時に分野横断型科目についての自己診断をおこない、該当する場合はその旨シラバスに記載する、という仕組みを作った。 (2) 他学部履修科目登録者数は、前年度と比較すると倍増したものの、目標値に届かなかった。昨年度の全学教務委員会における合意に基づき、各学部が全学共通科目高度教養教育科目で学部提供科目として提供可能なものをリストアップしている。次年度より、学部提供科目が大幅に増える予定である。これに合わせて、この科目の履修を促すパンフレット、動画を作成し、当該科目の履修手続き方法を簡略化することを決定した。 (3) ネクストプログラム履修登録者数は目標値を大幅に上回っている。今年度は、前年度の調査を踏まえて、ガイダンスの方法を対面形式へと変更した。また、新規プログラムとして「危機管理学×数理・データサイエンス・AI教育特別プログラム」を開設し、次年度より「グローバル人材育成プログラム(韓国語)」の開設することを決定した。

(参考) 評価指標達成状況

a-3. 異なる分野について学ぶ副専攻型特別教育プログラム(ネクストプログラム)の履修登録者数(令和9年度実績を令和3年度実績(349人)と比べて10%増加)

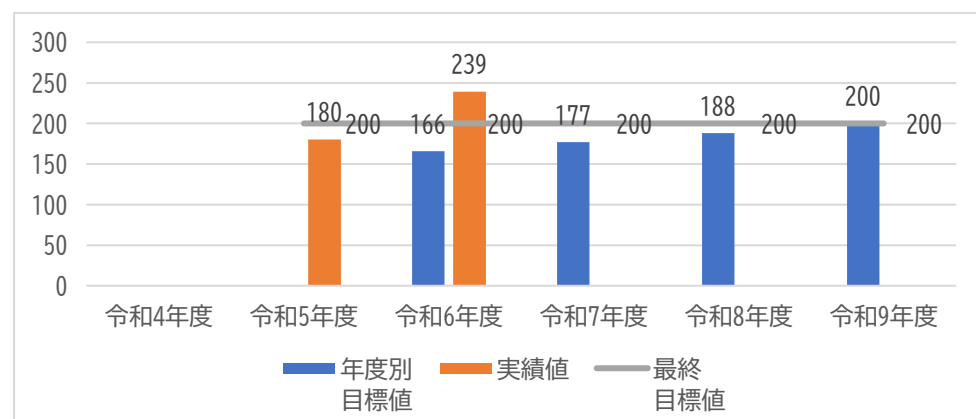


令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	1 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (2) 研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程)⑦
中期計画	2-1 国際学会や全国学会での発表を促進するための取り組みを強化し、博士課程への進学を見据えた高度な研究能力を身に付けた人材を養成する。
令和6年度自己判定	(IV) 計画を上回って実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	※aについては令和6年度より評価指標変更 令和6年度については、令和4年度に制定した「香川大学学術研究活動表彰」に基づき、国際学会及び全国学会で発表した学生に対し、令和6年9月27日および令和7年3月11日に、それぞれ学術研究活動表彰式を実施した。それぞれ9名（創発科学研究科6名、医学系研究科1名、教育学研究科2名）、および32名（創発科学研究科19名、医学系研究科1名、農学研究科9名、地域マネジメント研究科1名、工学研究科2名）の大学院生に対し表彰を行うなど、学生の国際学会及び全国学会での発表数を増加させるために必要な方策を実施している。

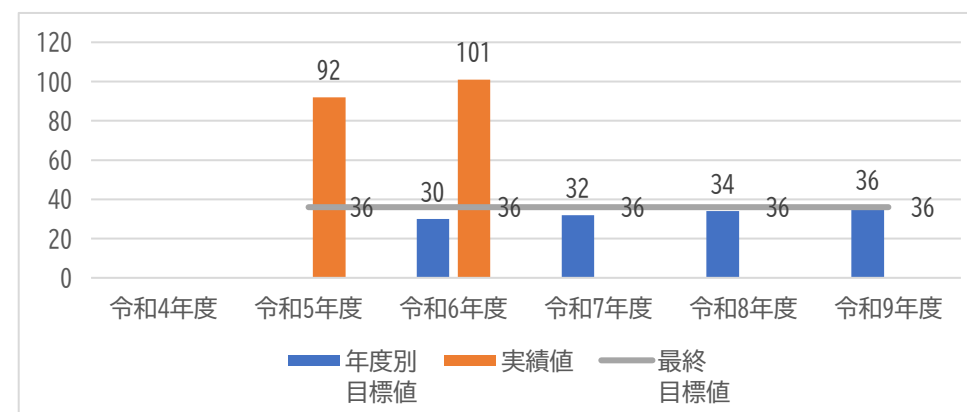
(参考) 評価指標達成状況

a-1. 修士課程学生の全国学会での発表数
(令和9年度実績を令和2年度実績(133回)と比べて50%増加。)



※令和6年度より評価指標変更

a-2. 修士課程学生の国際学会での発表数
(令和9年度実績を令和2年度実績(24回)と比べて50%増加。)



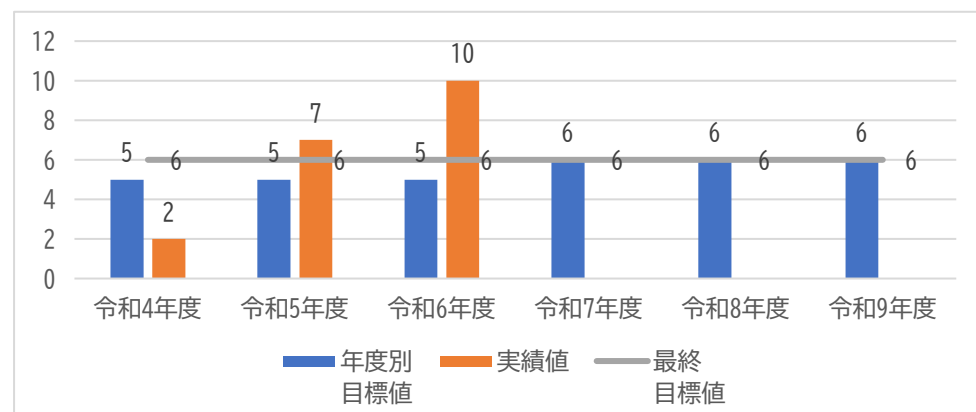
※令和6年度より評価指標変更

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	1 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (2) 研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程)⑦
中期計画	2-1 国際学会や全国学会での発表を促進するための取り組みを強化し、博士課程への進学を見据えた高度な研究能力を身に付けた人材を養成する。
令和6年度自己判定	(IV) 計画を上回って実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	※aについては令和6年度より評価指標変更 令和6年度については、令和4年度に制定した「香川大学学術研究活動表彰」に基づき、国際学会及び全国学会で発表した学生に対し、令和6年9月27日および令和7年3月11日に、それぞれ学術研究活動表彰式を実施した。それぞれ9名（創発科学研究科6名、医学系研究科1名、教育学研究科2名）、および32名（創発科学研究科19名、医学系研究科1名、農学研究科9名、地域マネジメント研究科1名、工学研究科2名）の大学院生に対し表彰を行うなど、学生の国際学会及び全国学会での発表数を増加させるために必要な方策を実施している。

(参考) 評価指標達成状況

b. 博士課程進学者数（令和9年度実績（令和9年度修士課程修了者の令和10年4月博士課程進学者数）を令和2年度実績（令和2年度修士課程修了者の令和3年4月博士課程進学者数：5名）と比べて20%増加）

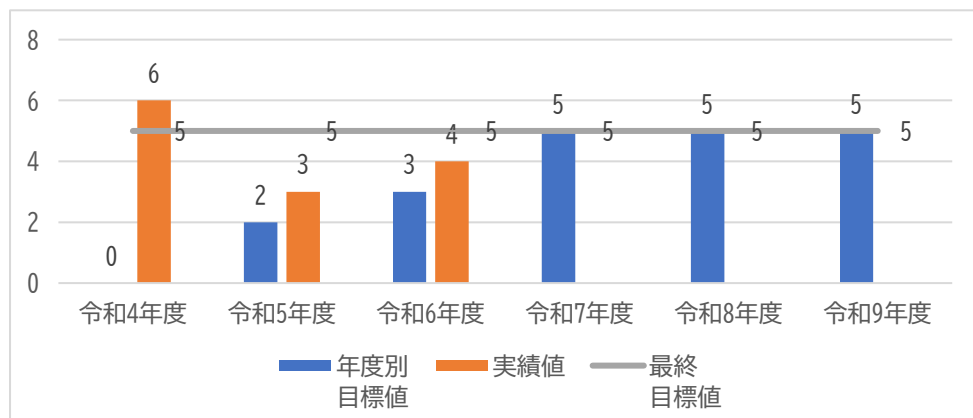


令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (2) 研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程)⑦
中期計画	2-2 修士課程におけるDRI（デザイン思考、リスクマネジメント、インフォマティクス（数理・情報基礎））教育の拡充及び学修成果の可視化を通じ、企画力、情報発信力、課題発見・解決力を身に付けた高度な実践的能力を有する人材を養成する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	a: 4件の応募があり、目標値を上回る結果となった。創発科学研究科・共通科目の「創発の実践」に関しては、3月26日に学外から授業の実施協力者を交えた意見交換会を開催し、学外協力者との連携や授業終了後のフォローアップ体制の構築等についての助言をいただいた。いただいた助言を踏まえつつ、授業内容の改善および支援体制の整備を図っていくこととする。 b. 47名の受験者があり、受験者数の増加を図ることができた。周知上の課題も確認できたため、R7年度には、新入生ガイダンス時などのより早い時期から周知活動を行う。

(参考) 評価指標達成状況

a. ビジネスモデル提案型や政策プラン提言型のコンペティション等への応募件数（令和9年度実績で5件以上）



令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (2) 研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程)⑦
中期計画	2-2 修士課程におけるDRI(デザイン思考、リスクマネジメント、インフォマティクス(数理・情報基礎))教育の拡充及び学修成果の可視化を通じ、企画力、情報発信力、課題発見・解決力を身に付けた高度な実践的能力を有する人材を養成する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	a: 4件の応募があり、目標値を上回る結果となった。創発科学研究科・共通科目の「創発の実践」に関しては、3月26日に学外から授業の実施協力者を交えた意見交換会を開催し、学外協力者との連携や授業終了後のフォローアップ体制の構築等についての助言をいただいた。いただいた助言を踏まえつつ、授業内容の改善および支援体制の整備を図っていくこととする。 b. 47名の受験者があり、受験者数の増加を図ることができた。周知上の課題も確認できたため、R7年度には、新入生ガイダンス時などのより早い時期から周知活動を行う。

(参考) 評価指標達成状況

b. アンケート調査やアセスメントテスト等を実施し、高度な実践的能力の基盤となるDRI能力を可視化する。デザイン思考教育については第4期開始時に指標を検討し、リスクマネジメント教育とインフォマティクス教育については令和4年度に作成したアセスメントテストを令和5年度から実施する。

(令和6年度 実施内容)

本年度は、創発科学研究科以外の研究科にも受験を呼び掛け、農学研究科、教育学研究科、地域マネジメント研究科を含めて合計47人がアセスメント(DRI検定)を受験した。その結果、「デザイン思考」29人、「リスクマネジメント」33人、「インフォマティクス」30人が合格水準をクリアした。平均得点、合格率とも、大学院生のほうが学部生を上回っていた。

昨年度より受験者数は増加したが、さらなるデータの蓄積は不可欠である。受験者の獲得においては周知活動上の課題も確認できたため、R7年度には、新入生ガイダンス時などのより早い時期から周知活動を行い、受験者の増加を目指す。

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (3) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程) ⑨
中期計画	3-1 教育学研究科では、「令和の日本型学校教育」に資する次世代の教員を育成するために、学校教育現場との連携を一層深め、①学校マネジメントに関与する資質・能力の強化、②多様化する幼児・児童・生徒に対応した個別最適な学びを実現する指導力の強化に重点を置いた、授業やカリキュラムの改善に取り組む。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	①各コースにおいて授業改善およびカリキュラム改善が実施され、その成果の検証が行われている。学校力開発コースでは、香川県教員等人材育成方針との関連を示したシラバスを作成し、前期、後期ともに授業改善が実施され、その成果がアンケートによって確認された。授業力開発コースでは、新たな資質・能力分類表にもとづいてカリキュラム改善が実施され、その成果が意見交流会によって確認されるとともに、授業公開FDも活用して授業改善が実施された。特別支援力開発コースでは、自立活動の支援に関する授業内容の改善や実習充実のための環境整備が実施されており、その成果がアンケートによって確認された。 ②新たな資質・能力分類表を確定するとともに、この分類表に基づいて「履修カルテ①+履修カルテ②」を作成し、試行的に実施するとともにアンケートを実施した。今後は、その結果を手がかりに「履修カルテ」の精度を高め、実施方法を改善して行く予定である。

(参考) 評価指標達成状況

a. 「令和の日本型学校教育」に求められる資質・能力の分類表を作成し、それに基づく授業やカリキュラムの改善及び履修カルテの作成を令和6年度までに実施する。

(令和6年度 実施内容)

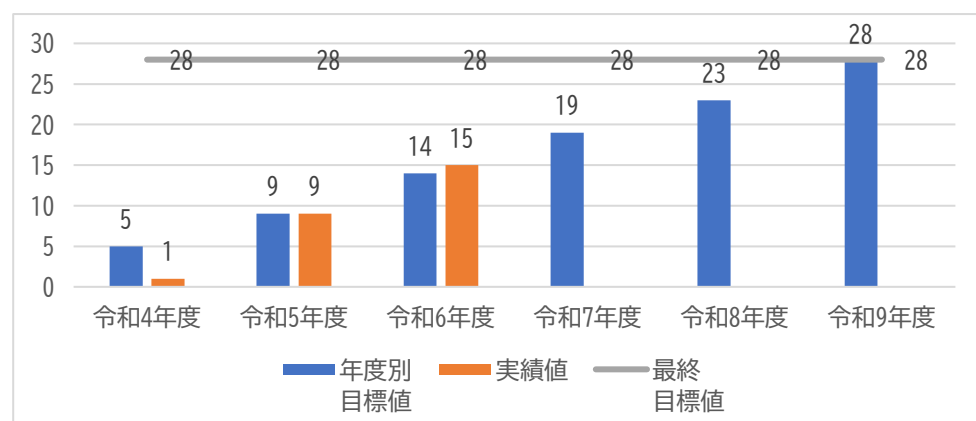
①学校力開発コースでは、香川県教員等人材育成方針との関連を示したシラバス(資料1、資料2、資料3)を作成するとともに、受講者に対して授業改善アンケート(資料4、資料5、資料6)を実施し、その結果をまとめた(資料7、資料8)。授業力開発コースでは、カリキュラム改善(資料9)を行い、令和6年度より新規に取り組んでいる授業科目の成果に関してアンケートを実施するとともに、アンケートの結果について新たな資質・能力分類表にもとづいて担当教員での意見交流会を実施した(資料10)。加えて、これまでの授業についても、授業公開FDを実施して、他の教員からの意見や院生からの授業評価をもとに改善を図った。特別支援力開発コースでは、文部科学省通知による特別支援教育の最新の動向と、新たな資質・能力分類表に基づき、自立活動の指導に関する授業内容の改善、及び実習充実のための環境整備を実施する(資料11)とともに、アンケートを実施し(資料12)、その結果をまとめた(資料13)。
②新たな資質・能力分類表(資料14)を確定し、この分類表に基づいた学部卒院生用および現職教員院生用の「履修カルテ①+履修カルテ②」(資料15)を作成し、試行的に実施するとともに、「履修カルテ」アンケートを実施した(資料16)。今後はこのアンケート結果を手がかりに、「履修カルテ」の精度を高めていく予定である。

令和6年度 自己点検・評価結果について

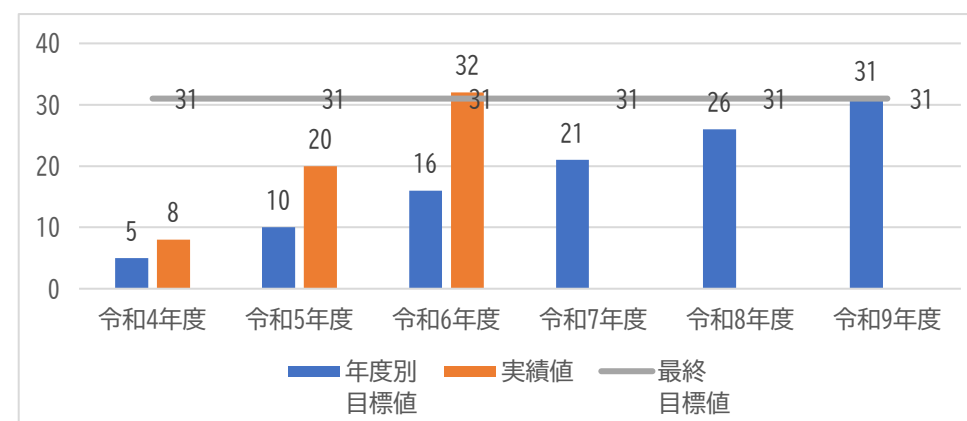
中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (3) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程)⑨
中期計画	3-2 地域マネジメント研究科においては、地域・社会課題を素材とした実践型教育プログラムを充実させて、幅広く社会人大学院生を受け入れ、広域的な人材交流や修了生の活動を促進するエコシステムの創造を通して、キャリアアップだけでなく、起業、新規事業、キャリアチェンジを含む柔軟なキャリア形成を実現し、地域活性化に貢献する高度専門職業人を育成する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	評価指標全体(a～d)について、おおむね、計画を上回る進捗実績で推移している。 ただし新規授業科目については、令和5年に受審した経営系専門職大学院認証評価の結果、本学でのDRI教育の推進、数年続く専任教員の定年退職等を前提に、検討を継続しており、今後、より具体的な検討に注力していく。 そのためにも新規教育プログラムについて、アントレプレナーシップ育成関連を中心に、リカレント専門講座やその他公開講座の実施、また修了生の巻き込みにより注力していくとともに、実施結果を振り返り、内容に修正を加え、新規授業科目化を模索しながら、新規の教育プログラムを創出していく。 最終的には、香川大学としてのリカレント教育の在り方の定義に貢献し、その実施体制をより安定的で強固なものにしていくことに貢献する。

(参考) 評価指標達成状況

a-1. 新規開設等した授業科目数（第4期の総数を第3期実績（27科目）と比べて増加）



a-2. 新規開設等した教育プログラム数（第4期の総数を第3期実績（30件）と比べて増加）

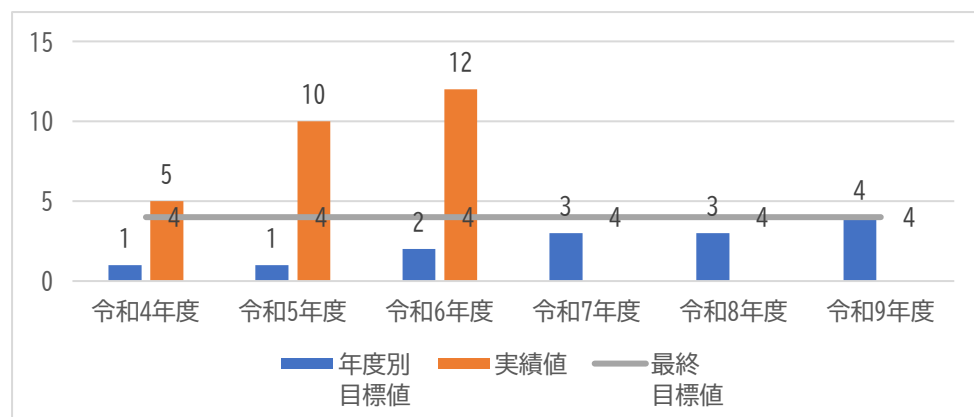


令和6年度 自己点検・評価結果について

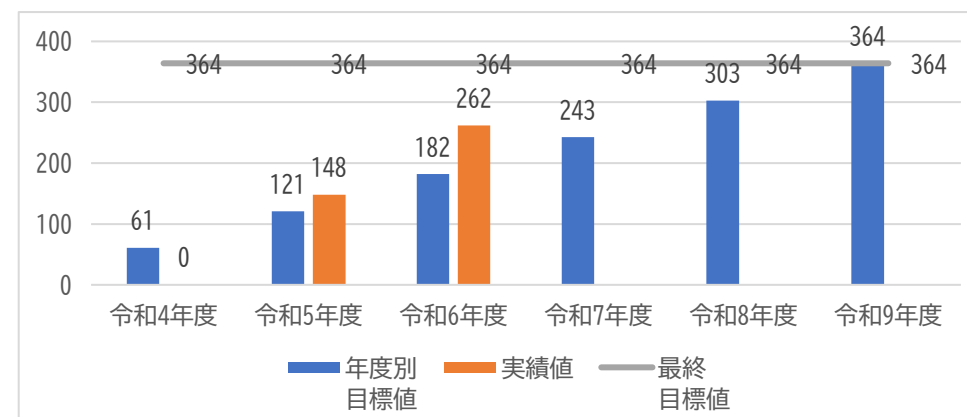
中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (3) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程) ㊟
中期計画	3-2 地域マネジメント研究科においては、地域・社会課題を素材とした実践型教育プログラムを充実させて、幅広く社会人大学院生を受け入れ、広域的な人材交流や修了生の活動を促進するエコシステムの創造を通して、キャリアアップだけでなく、起業、新規事業、キャリアチェンジを含む柔軟なキャリア形成を実現し、地域活性化に貢献する高度専門職業人を育成する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	評価指標全体(a～d)について、おおむね、計画を上回る進捗実績で推移している。 ただし新規授業科目については、令和5年に受審した経営系専門職大学院認証評価の結果、本学でのDRI教育の推進、数年続く専任教員の定年退職等を前提に、検討を継続しており、今後、より具体的な検討に注力していく。 そのためにも新規教育プログラムについて、アントレプレナーシップ育成関連を中心に、リカレント専門講座やその他公開講座の実施、また修了生の巻き込みにより注力していくとともに、実施結果を振り返り、内容に修正を加え、新規授業科目化を模索しながら、新規の教育プログラムを創出していく。 最終的には、香川大学としてのリカレント教育の在り方の定義に貢献し、その実施体制をより安定的で強固なものにしていくことに貢献する。

(参考) 評価指標達成状況

a-3. 新規開設等した実践的なテーマのプロジェクト研究数 (第4期の総数を第3期実績(3件)と比べて増加)



b-1. 新規開設等した授業科目の受講者数 (第4期の総数を第3期実績(363名)と比べて増加)

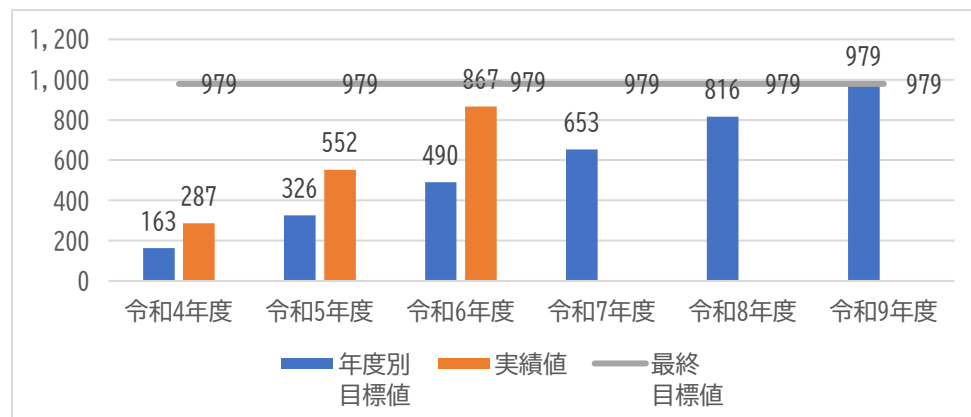


令和6年度 自己点検・評価結果について

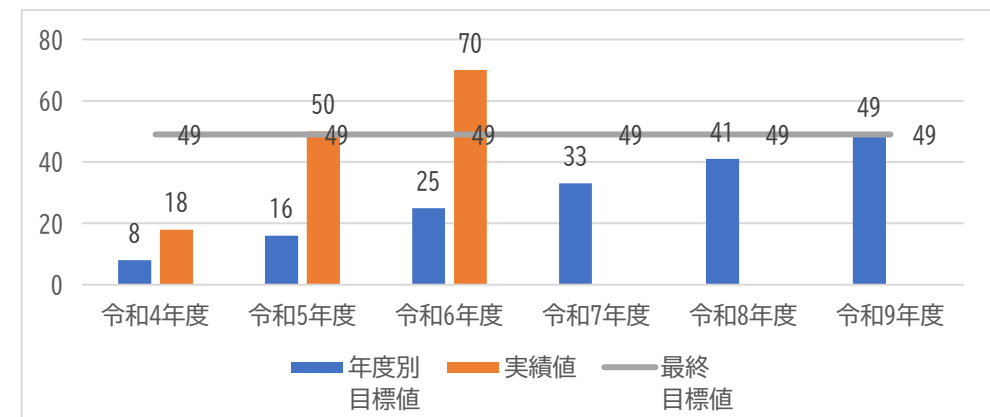
中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (3) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程) ㊟
中期計画	3-2 地域マネジメント研究科においては、地域・社会課題を素材とした実践型教育プログラムを充実させて、幅広く社会人大学院生を受け入れ、広域的な人材交流や修了生の活動を促進するエコシステムの創造を通して、キャリアアップだけでなく、起業、新規事業、キャリアチェンジを含む柔軟なキャリア形成を実現し、地域活性化に貢献する高度専門職業人を育成する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	評価指標全体(a～d)について、おおむね、計画を上回る進捗実績で推移している。 ただし新規授業科目については、令和5年に受審した経営系専門職大学院認証評価の結果、本学でのDRI教育の推進、数年続く専任教員の定年退職等を前提に、検討を継続しており、今後、より具体的な検討に注力していく。 そのためにも新規教育プログラムについて、アントレプレナーシップ育成関連を中心に、リカレント専門講座やその他公開講座の実施、また修了生の巻き込みにより注力していくとともに、実施結果を振り返り、内容に修正を加え、新規授業科目化を模索しながら、新規の教育プログラムを創出していく。 最終的には、香川大学としてのリカレント教育の在り方の定義に貢献し、その実施体制をより安定的で強固なものにしていくことに貢献する。

(参考) 評価指標達成状況

b-2. 新規開設等した教育プログラムの受講者数
(第4期の総数を第3期実績(978名)と比べて増加)



b-3. 新規開設等した教育プログラムの連携協力企業・行政等の組織数
(第4期の総数を第3期実績(48件)と比べて増加)

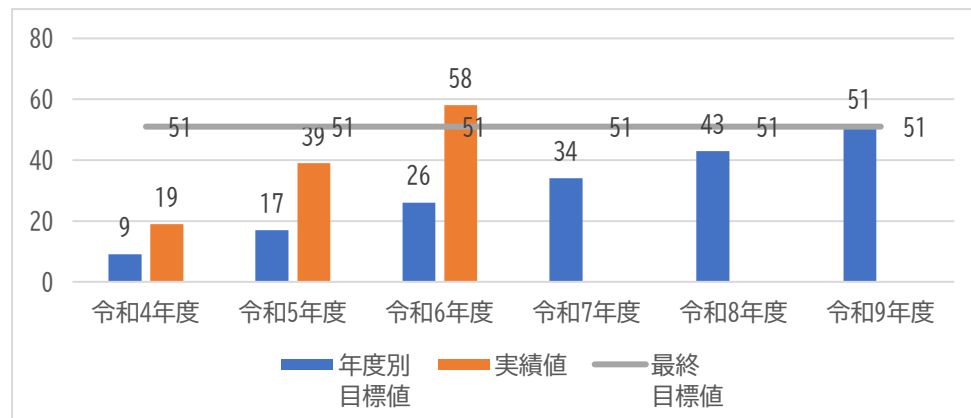


令和6年度 自己点検・評価結果について

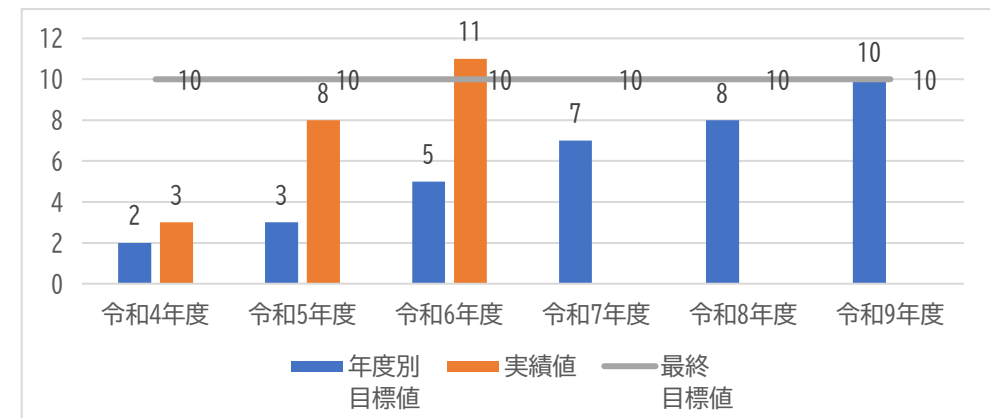
中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (3) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程)⑨
中期計画	3-2 地域マネジメント研究科においては、地域・社会課題を素材とした実践型教育プログラムを充実させて、幅広く社会人大学院生を受け入れ、広域的な人材交流や修了生の活動を促進するエコシステムの創造を通して、キャリアアップだけでなく、起業、新規事業、キャリアチェンジを含む柔軟なキャリア形成を実現し、地域活性化に貢献する高度専門職業人を育成する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	評価指標全体(a～d)について、おおむね、計画を上回る進捗実績で推移している。 ただし新規授業科目については、令和5年に受審した経営系専門職大学院認証評価の結果、本学でのDRI教育の推進、数年続く専任教員の定年退職等を前提に、検討を継続しており、今後、より具体的な検討に注力していく。 そのためにも新規教育プログラムについて、アントレプレナーシップ育成関連を中心に、リカレント専門講座やその他公開講座の実施、また修了生の巻き込みにより注力していくとともに、実施結果を振り返り、内容に修正を加え、新規授業科目化を模索しながら、新規の教育プログラムを創出していく。 最終的には、香川大学としてのリカレント教育の在り方の定義に貢献し、その実施体制をより安定的で強固なものにしていくことに貢献する。

(参考) 評価指標達成状況

c-1. 修了生の取組に対する支援の数
(第4期の総数を第3期実績(50件)と比べて増加)



c-2. 修了生による講義数
(第4期の総数を第3期実績(9件)と比べて増加)

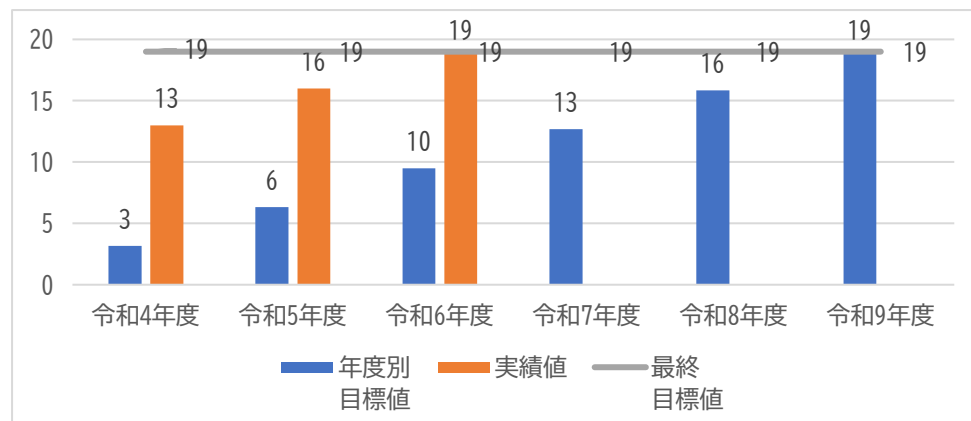


令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (3) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程) ⑨
中期計画	3-2 地域マネジメント研究科においては、地域・社会課題を素材とした実践型教育プログラムを充実させて、幅広く社会人大学院生を受け入れ、広域的な人材交流や修了生の活動を促進するエコシステムの創造を通して、キャリアアップだけでなく、起業、新規事業、キャリアチェンジを含む柔軟なキャリア形成を実現し、地域活性化に貢献する高度専門職業人を育成する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	評価指標全体(a～d)について、おおむね、計画を上回る進捗実績で推移している。 ただし新規授業科目については、令和5年に受審した経営系専門職大学院認証評価の結果、本学でのDRI教育の推進、数年続く専任教員の定年退職等を前提に、検討を継続しており、今後、より具体的な検討に注力していく。 そのためにも新規教育プログラムについて、アントレプレナーシップ育成関連を中心に、リカレント専門講座やその他公開講座の実施、また修了生の巻き込みにより注力していくとともに、実施結果を振り返り、内容に修正を加え、新規授業科目化を模索しながら、新規の教育プログラムを創出していく。 最終的には、香川大学としてのリカレント教育の在り方の定義に貢献し、その実施体制をより安定的で強固なものにしていくことに貢献する。

(参考) 評価指標達成状況

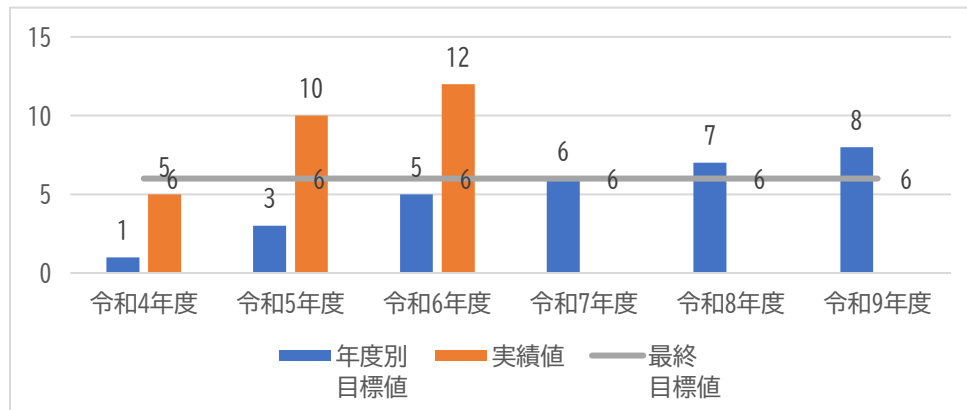
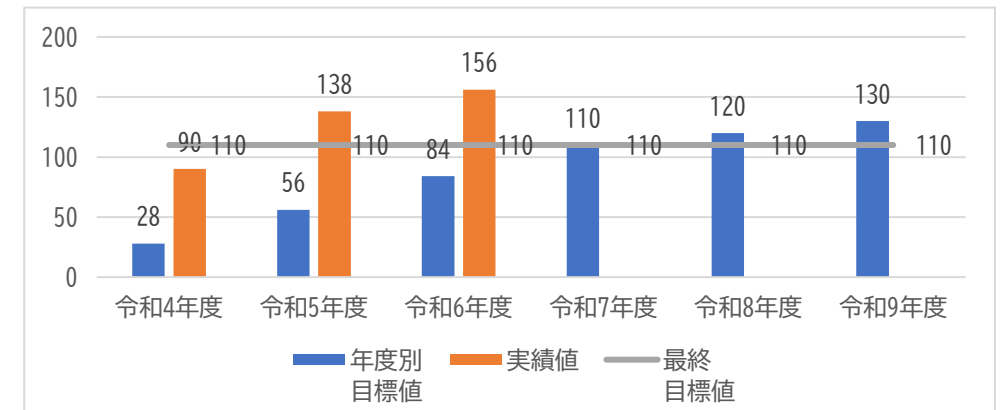
d. 実現した新規事業、起業、組織間連携による事業、地域活性化に資するビジネス・事業・部門部署で活躍する修了生の総件数 (第4期の総数を第3期実績(新規事業、起業、組織間連携による事業、地域活性化に資するビジネス・事業・部門部署で活躍する修了生の総件数18)と比べて増加)



令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	1 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (4) データ駆動型社会への移行など産業界や地域社会等の変化に応じて、社会人向けの新たな教育プログラムを機動的に構築し、数理・データサイエンス・AIなど新たなリテラシーを身に付けた人材や、既存知識をリバイズした付加価値のある人材を養成することで、社会人のキャリアアップを支援する。⑪
中期計画	4-1 社会人の学びの志向に円滑かつ機動的に応えるため、支援体制を組織的に整備し、各種の支援機能の強化・拡充を図ることにより、社会人のワークキャリア・ライフキャリアの向上に資する多様なリカレント教育・リスキリング教育を展開する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	新規の専門リカレント講座を2つ実施したこと、受講者総数は延べ156名に達し、いずれも目標値を上回る実績が得られたこと、受講者の高い評価が得られたことなどから、「(Ⅲ) 計画を実施している」と評価した。

(参考) 評価指標達成状況

a. 新たなリカレント・リスキリングプログラムの実施件数
(第4期中に新たに実施した件数6件以上)b. 新たなリカレント・リスキリングプログラムの受講者数
(第4期中に新たに実施したプログラムの受講者数110人以上(延べ数))

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	Ⅰ 教育研究の質の向上に関する事項 Ⅱ 教育 (4) データ駆動型社会への移行など産業界や地域社会等の変化に応じて、社会人向けの新たな教育プログラムを機動的に構築し、数理・データサイエンス・AIなど新たなリテラシーを身に付けた人材や、既存知識をリバイズした付加価値のある人材を養成することで、社会人のキャリアアップを支援する。⑪
中期計画	4-1 社会人の学びの志向に円滑かつ機動的に応えるため、支援体制を組織的に整備し、各種の支援機能の強化・拡充を図ることにより、社会人のワークキャリア・ライフキャリアの向上に資する多様なリカレント教育・リスキリング教育を展開する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	新規の専門リカレント講座を2つ実施したこと、受講者総数は延べ156名に達し、いずれも目標値を上回る実績が得られたこと、受講者の高い評価が得られたことなどから、「(Ⅲ) 計画を実施している」と評価した。

(参考) 評価指標達成状況

c. 可視化した実績データに基づく地域関係者による外部評価を毎年度実施し、評価結果を公表する。

(令和6年度 実施内容)

上記の実績をとりまとめ、諮問会議に上程する予定としており、R7年度の計画に反映させる。

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (5) 様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する。⑬
中期計画	5-1 学生が安心して学べる環境を提供するため、ダイバーシティを推進し、多様性に配慮した修学支援、生活支援等の充実や環境整備等を行う。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	D&Iに関する全学調査vol.3を実施した。令和4年度以降、3年間の実施により、香川大学のD&Iに関する傾向と課題を顕在化することができた。学生の回答率が低下しているため、高めていく検討をするとともに、より活動の効果を測定できるように調査項目の内容について量的・質的両面から再検討を行う。 調査項目「多様性を尊重した大学運営」について尋ねる設問では、肯定的な回答をした学生・教職員が3年間を通して明確に上昇傾向にあり、今年度の調査では、肯定的回答が学生74%、教職員59%に達した。これは、D&Iフェスタの開催、D&I関連科目の開講、D&I推進ムーブメントの紹介などの啓発活動の効果が表れた結果と考える。 教育面では、D&I関連科目として今年度も全学共通科目で2科目開講し、延べ143名の学生が受講したが、今年度、全学生が全学共通科目において「D&I」について学ぶ機会を持てるような仕組みを構築したことにより、今後より多くの学生がD&Iに関する教育を受けることができる。 また、今年度から全構成員を対象としたD&Iに関する理解度や認知度の向上を図るため導入した「D&Iマスター制度」では、19名の学生・教職員が修了した。これらの取り組みにより、学生が多様性を理解し、多様な社会で活躍できるスキルを身につけることが期待できる。 制度面では、従来の通称使用に加え、学生が自認する性別を使用できるように要項を整備し、また、全キャンパスの多目的トイレのサインを性の多様性に配慮したサインに統一するなど環境整備にも取り組んだ。

(参考) 評価指標達成状況

a. 令和4年度にダイバーシティ推進のためのガイドライン及び活動計画を策定するとともに、令和5年度から活動計画の進捗状況を外部の有識者により検証し、検証結果に基づく改善状況を公表する。

(令和6年度 実施内容)

D&I活動計画に基づき、バリアフリー支援室、留学生センター、保健管理センター、関係する部署等と連携し、さまざまな施策を実施した。具体的には、6月に実施した「D&Iに関する全学調査Vol.3」の調査結果をもとに課題を抽出し、それをD&I活動計画に反映させ、改善に向けた取り組みを行った。

調査結果では、無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)に気づいていない事例が多く見受けられたため、今年度は「アンコンシャスバイアス」をテーマに教職員に対して研修を実施した。

また、今年度も前年度同様、D&I関連科目として、全学共通科目で2科目開講するなど、D&Iについて学生に学ぶ機会を提供した。これにより、延べ143名(昨年度178名)の学生が受講した。

さらに、性の多様性を尊重するため、従来の通称使用に加え、学生が自認する性別を使用できるように要項を整備した。併せて、全キャンパスの多目的トイレのサインを性の多様性に配慮したサインに統一した。

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (5) 様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する。⑬
中期計画	5-1 学生が安心して学べる環境を提供するため、ダイバーシティを推進し、多様性に配慮した修学支援、生活支援等の充実や環境整備等を行う。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	D&Iに関する全学調査vol.3を実施した。令和4年度以降、3年間の実施により、香川大学のD&Iに関する傾向と課題を顕在化することができた。学生の回答率が低下しているため、高めていく検討をするとともに、より活動の効果を測定できるように調査項目の内容について量的・質的両面から再検討を行う。 調査項目「多様性を尊重した大学運営」について尋ねる設問では、肯定的な回答をした学生・教職員が3年間を通して明確に上昇傾向にあり、今年度の調査では、肯定的回答が学生74%、教職員59%に達した。これは、D&Iフェスタの開催、D&I関連科目の開講、D&I推進ムーブメントの紹介などの啓発活動の効果が表れた結果と考える。 教育面では、D&I関連科目として今年度も全学共通科目で2科目開講し、延べ143名の学生が受講したが、今年度、全学生が全学共通科目において「D&I」について学ぶ機会を持てるような仕組みを構築したことにより、今後より多くの学生がD&Iに関する教育を受けることができる。 また、今年度から全構成員を対象としたD&Iに関する理解度や認知度の向上を図るため導入した「D&Iマスター制度」では、19名の学生・教職員が修了した。これらの取り組みにより、学生が多様性を理解し、多様な社会で活躍できるスキルを身につけることが期待できる。 制度面では、従来の通称使用に加え、学生が自認する性別を使用できるように要項を整備し、また、全キャンパスの多目的トイレのサインを性の多様性に配慮したサインに統一するなど環境整備にも取り組んだ。

(参考) 評価指標達成状況

b. 教職員や学生に対するダイバーシティへの理解度や活動の効果を測定するアンケート調査を毎年実施し、アンケート結果及び結果に基づく改善状況を公表する。

(令和6年度 実施内容)

D&Iに関する全学調査vol.3を実施した。3年間の実施を通じて、香川大学のD&Iに関する傾向と課題を明確にすることができた。学生の回答率が低下傾向にあるため、今後は学生の回答率を向上させるための方策を検討するとともに、より効果的に成果を測定できるよう、調査項目の内容について量的・質的両面から再検討を行う。

調査項目「多様性を尊重した大学運営」について尋ねる設問では、肯定的な回答をした構成員が3年間を通して明確に増加傾向にあり、今年度の調査では、学生74%、教職員59%が肯定的な回答をした。これは、D&Iフェスタの開催やD&I関連科目の開講、D&I推進ムーブメントの紹介など、啓発活動の効果が表れた結果と考える。

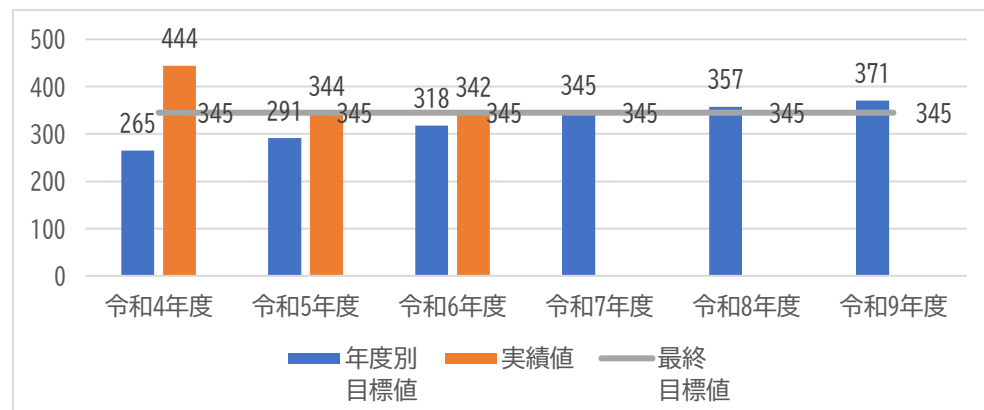
さらに、今年度から全構成員を対象としたD&Iに関する理解度や認知度の向上を図る「D&Iマスター制度」を導入し、初年度は19名の学生・教職員が修了した。現在活動中の学生プロジェクトメンバーに加え、マスター修了の学生にも、学生の視点でD&Iにおける諸問題を考えたり、D&Iフェスタの企画・広報活動に関与してもらうことで、学生の意識向上をさらに進めていく。

令和6年度 自己点検・評価結果について

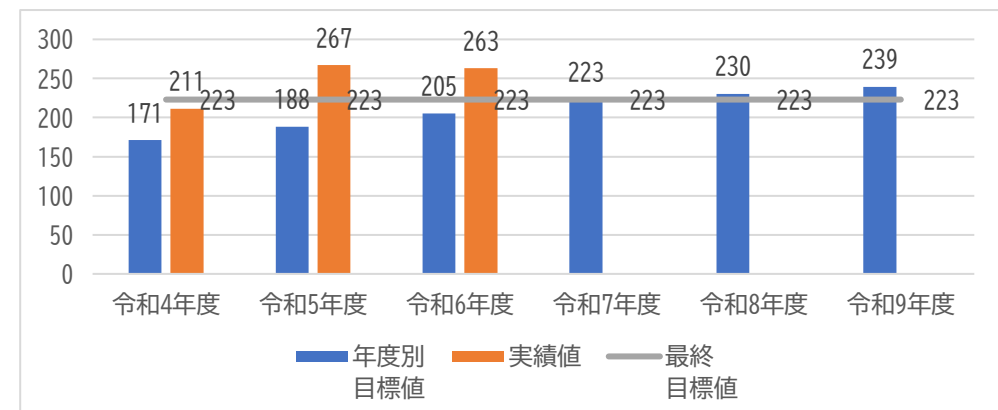
中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (5) 様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する。⑬
中期計画	5-2 学生に多様性の理解を促すため、留学・海外研修（オンラインを含む）等の交流活動に加えて、地域と連携した取組等により、グローバル教育環境を拡充する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	8月にはチェンマイ大学にて本学・チェンマイ大学・国立嘉義大学との3大学合同シンポジウムを開催した。対面での開催で、68名の教職員・学生が参加し、活発な交流が実現したため、今後の展開に大きな期待ができるものとなった。 インターナショナルオフィス及び部局における学生短期交流プログラム等も活発に実施した。また、香川県の学生派遣事業や、「かがわグローバル人材共創事業「グローバル・スタートアップ海外研修プログラム」」（旧トビタテ！留学JAPAN（地域人材コース））の公募を再開させ、本学の学生を派遣した。 円安の影響や航空券の高騰の影響は避けられないが、今後も派遣支援の充実を諮り、プログラム実施については事前研修や説明会を実施して国際交流に関する理解を深める努力をするものである。 コロナ禍以前の地域との関係性は途切れることなく連携を継続しており、本学のグローバル教育プログラムの実施に協力をいただいているところである。 BEVIテストを実施し実施数が少ないながらも分析結果を得て、留学相談等の参考にしている。

(参考) 評価指標達成状況

a-1. 受入留学生数（令和9年度末実績を第3期平均265名と比べて30%増加）



a-2. 派遣日本人学生数、海外研修・海外インターンシップ参加学生数（令和9年度末実績を第3期平均171名と比べて30%増加）

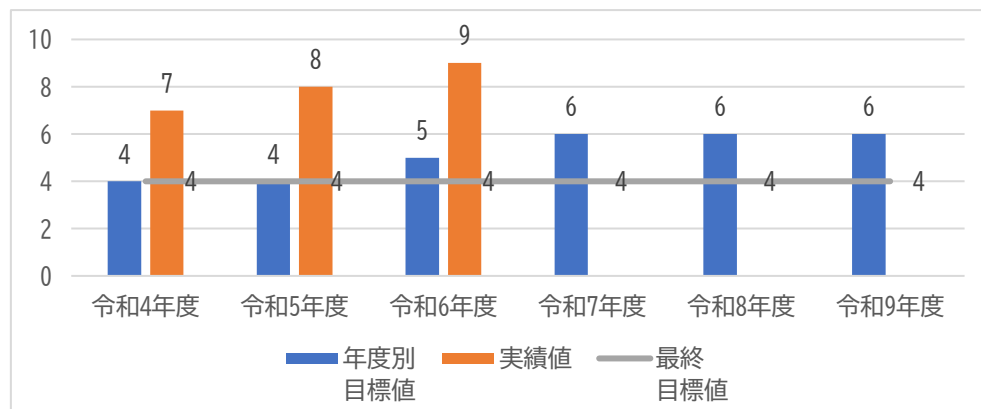


令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	1 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (5) 様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する。⑬
中期計画	5-2 学生に多様性の理解を促すため、留学・海外研修（オンラインを含む）等の交流活動に加えて、地域と連携した取組等により、グローバル教育環境を拡充する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	8月にはチェンマイ大学にて本学・チェンマイ大学・国立嘉義大学との3大学合同シンポジウムを開催した。対面での開催で、68名の教職員・学生が参加し、活発な交流が実現したため、今後の展開に大きな期待ができるものとなった。 インターナショナルオフィス及び部局における学生短期交流プログラム等も活発に実施した。また、香川県の学生派遣事業や、「かがわグローバル人材共創事業「グローバル・スタートアップ海外研修プログラム」」（旧トビタテ！留学JAPAN（地域人材コース）」の公募を再開させ、本学の学生を派遣した。 円安の影響や航空券の高騰の影響は避けられないが、今後も派遣支援の充実を諮り、プログラム実施については事前研修や説明会を実施して国際交流に関する理解を深める努力をするものである。 コロナ禍以前の地域との関係性は途切れることなく連携を継続しており、本学のグローバル教育プログラムの実施に協力をいただいているところである。 BEVIテストを実施し実施数が少ないながらも分析結果を得て、留学相談等の参考にしている。

(参考) 評価指標達成状況

b. 地域のステークホルダーと大学とが連携して実施するグローバル教育プログラム数（令和9年度末実績を令和3年度末実績3件と比べて30%増加）



c. グローバルな視点からの学生の多様性の理解、交流活動等による理解の変化及び行動変容を評価する仕組みを構築する。

(令和6年度 実施内容)

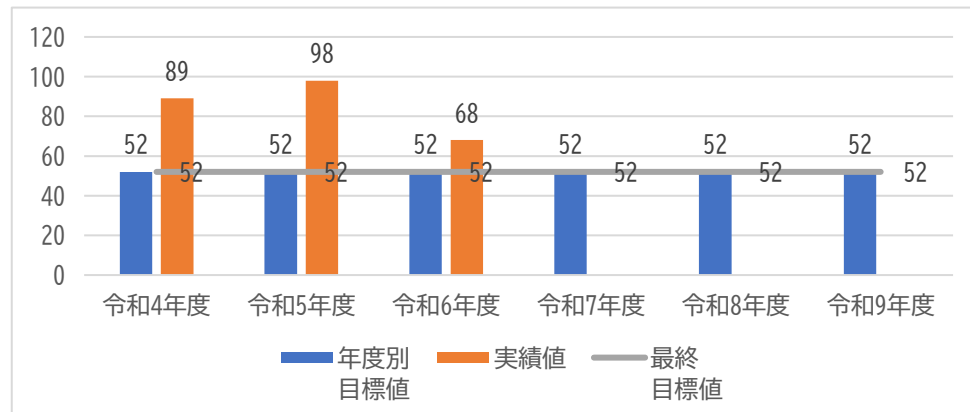
JASSO採択協定派遣「がいな」人材育成プログラムの海外派遣学生4名、STUDY ABROAD（西オーストラリア大学 8名、ブルネイダルサラーム大学 3名）、マレーシア・多文化体験プログラム8名の派遣学生にBEVIテストを実施した。

令和6年度 自己点検・評価結果について

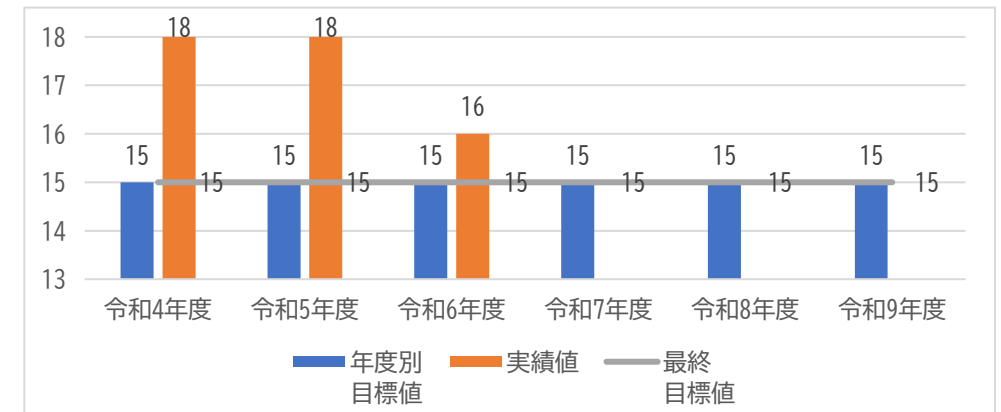
中期目標	3 研究 (1) 真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指した基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑭
中期計画	1-1 希少糖、微細構造デバイス、次世代通信・環境を支えるマテリアル・システム等、独創性が高く、先導的に展開している研究を、重点研究として定め、卓越性をさらに高める。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	各研究プロジェクトにおいて、目標を上回る実績を上げており、順調に計画を実施することができたと認められる。

(参考) 評価指標達成状況

a. 重点研究の査読付き論文数 (第4期の平均を第3期平均と比べて10%増加)



b. 知的財産 (研究成果有体物 (マテリアル) を含む) の実施許諾等収入に係る契約件数 (第4期の平均を第3期平均と比べて10%増加)

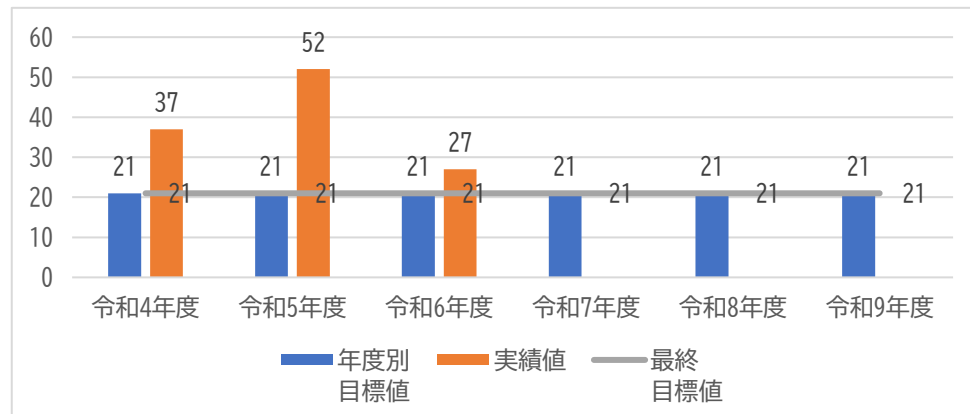


令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	3 研究 (1) 真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指した基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑭
中期計画	1－1 希少糖、微細構造デバイス、次世代通信・環境を支えるマテリアル・システム等、独創性が高く、先導的に展開している研究を、重点研究として定め、卓越性をさらに高める。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	各研究プロジェクトにおいて、目標を上回る実績を上げており、順調に計画を実施することができたと認められる。

(参考) 評価指標達成状況

c. 招待講演数 (第4期の平均を第3期平均と比べて10%増加)

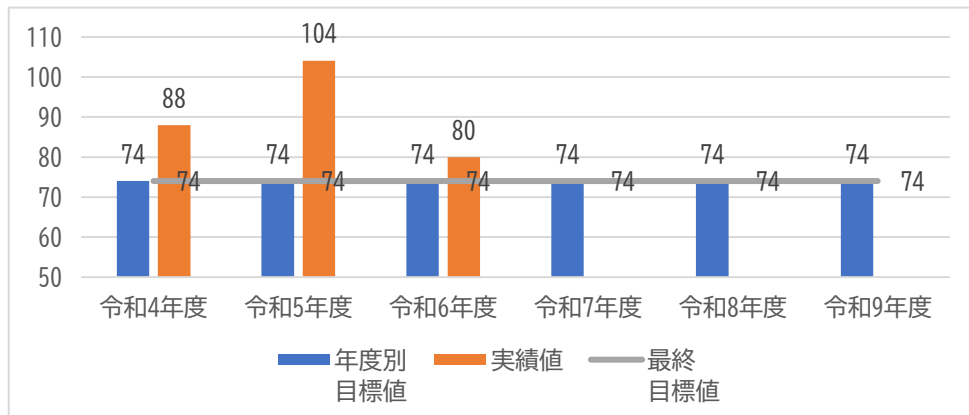


令和6年度 自己点検・評価結果について

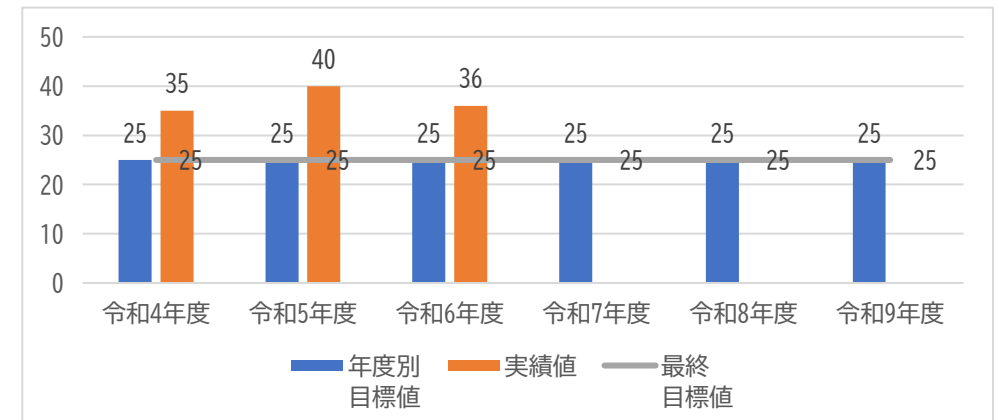
中期目標	3 研究 (1) 真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指した基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑭
中期計画	1－2 地域コミュニティの回復力強化（社会的レジリエンス）、瀬戸内圏の環境・資源、包括的健康イノベーションの創出、資源ゲノム、MaaS（Mobility as a Service）等、継続的なデータ収集に基づく特色ある研究などの、地域社会の課題の解決や資源の持続的な活用に資する研究を推進する。
令和6年度自己判定	（Ⅲ）計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	各研究プロジェクトにおいて、目標値を上回る業績を上げており、順調に計画を遂行していると認められる。

（参考）評価指標達成状況

a. 地域社会を対象とした研究の査読付き論文数（第4期の平均を第3期平均と比べて10%増加）



b. 継続的に収集したデータに基づく学術的成果（査読付き論文、書籍等）の数（第4期の平均を第3期平均と比べて10%増加）

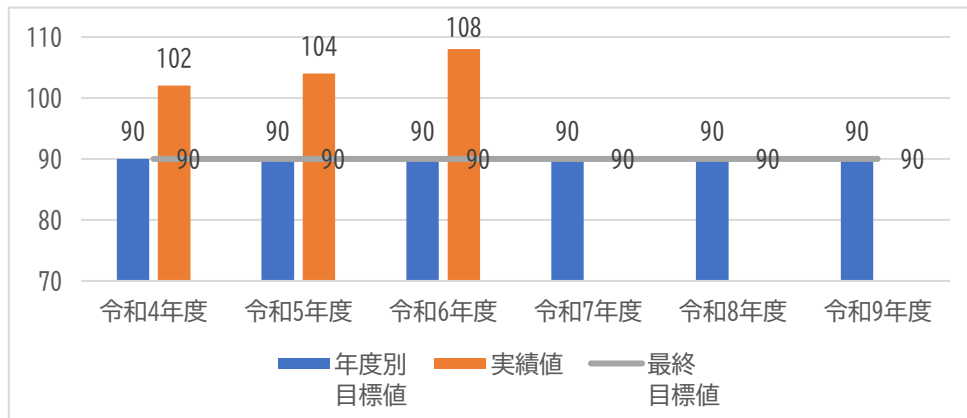


令和6年度 自己点検・評価結果について

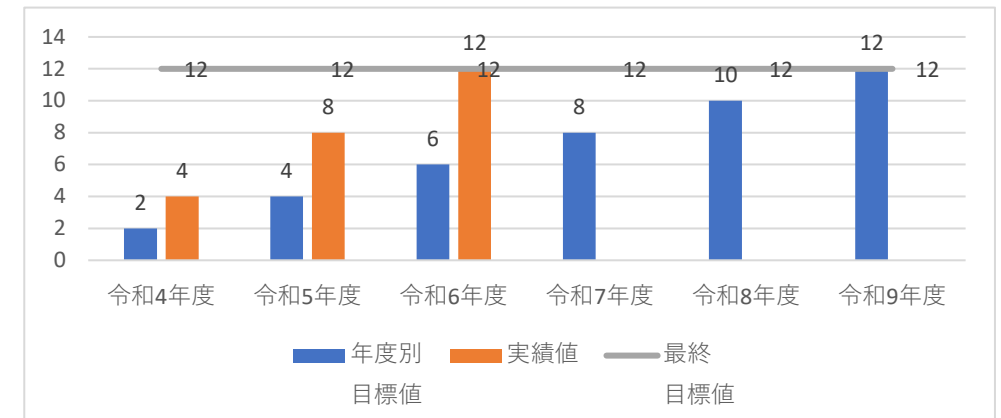
中期目標	3 研究 (1) 真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指した基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑭
中期計画	1－3 分散キャンパスにある研究資源の有効活用と研究の多様化を推進するため、デジタルONE戦略※に基づき、研究設備・機器の共用、研究者のマッチング、研究成果の発信等のシステムを構築し、研究機能を強化する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	計画どおり事業を実施している。

(参考) 評価指標達成状況

a. 全学の機器共用ネットワークシステムに登録された研究設備・機器の件数 (第4期の平均を第3期平均と比べて20%増加)



b. マッチングシステムによる研究連携の実施数 (第4期中に合計12件以上)

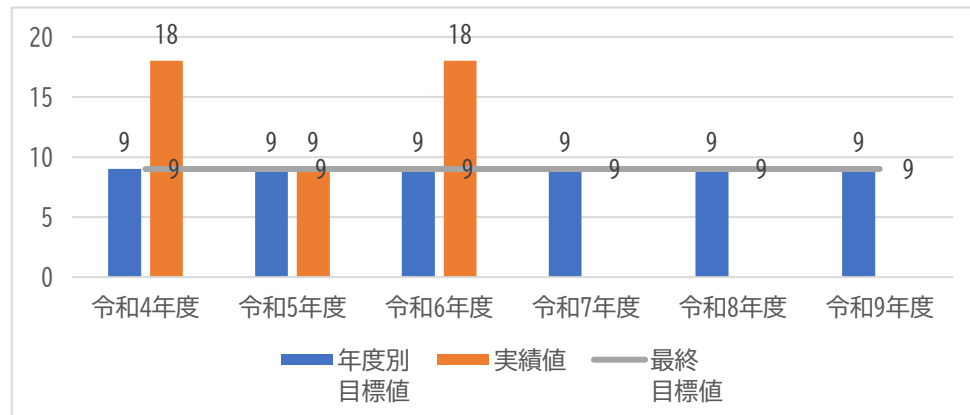


令和6年度 自己点検・評価結果について

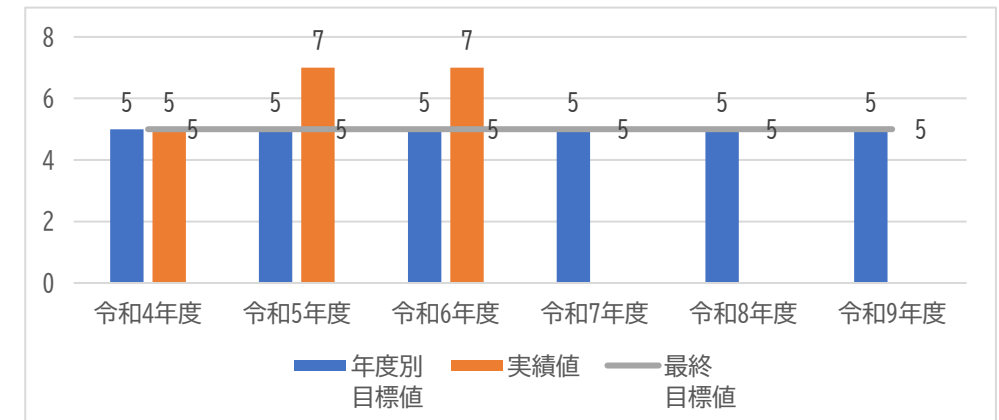
中期目標	3 研究 (2) 地域から地球規模に至る社会課題を解決し、より良い社会の実現に寄与するため、研究により得られた科学的理論や基礎的知見の現実社会での実践に向けた研究開発を進め、社会変革につながるイノベーションの創出を目指す。⑮
中期計画	2-1 未来社会を想定したイノベーションの創出に向け、分野を超えた多様な研究者から構成される研究チームを編成し、産官学の連携によって、社会の課題解決や社会実装につながる研究開発を強化する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	計画どおり事業を実施している。

(参考) 評価指標達成状況

a. 社会の課題解決や社会実装に係る分野横断型の研究チーム数 (第4期の平均を第3期平均と比べて30%増加)



b. 社会の課題解決や社会実装に係る分野横断型の共同研究・受託研究契約数 (第4期の平均を第3期平均と比べて30%増加)

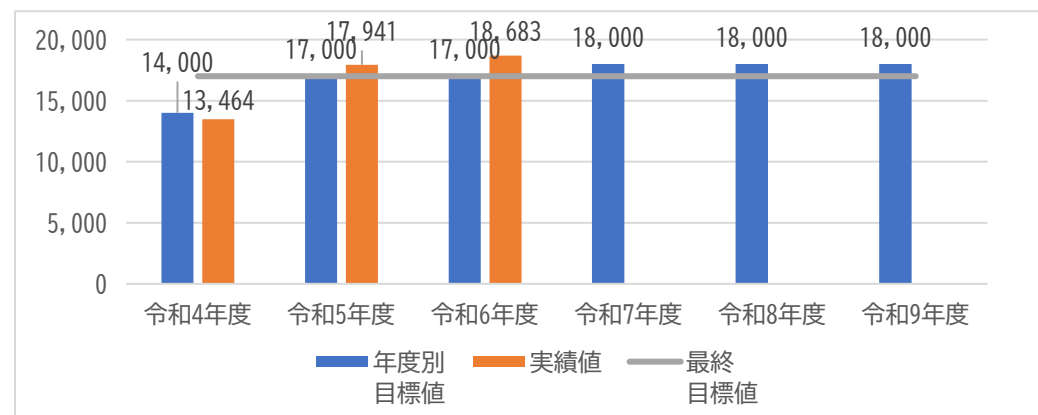


令和6年度 自己点検・評価結果について

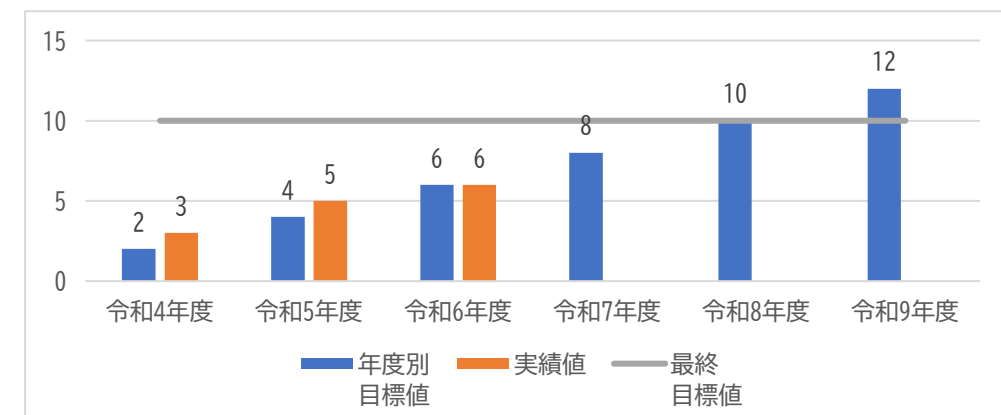
中期目標	4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項 (1) 世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院) ㊟
中期計画	1-1 最新の医療に対応できる医療人を育成するために、教育・研修体制を充実させるとともに、感染症教育センターを発展させ、種々の感染症にも対応できる医療人を育成する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	①令和6年度から新たにスキルスラボの管理業務のみを担当するスキルスラボセンターを開設し、7月より専任の臨床工学技士の配置を行い、現行のシミュレータの保守点検を行うとともにラボ内で利用頻度の高いシミュレータの整備、消耗品の整理を行った。OSCE実習に併せて採血実習用シミュレータ等を複数人で使用できるように整備を行った。さらにスキルスラボ外への貸出頻度の高いシミュレータに関しても整備・管理の行いやすい様に機材庫の整備を行った。その他、小中高校生向けの医療機器体験会を開催し好評を得た。各診療科へ令和6年度の利用状況等のアンケートを実施し、利用状況により機器のレイアウトおよび令和7年度更新機器等の検討を行う。 ②令和6年度は6名(院内4名、院外2名)の特定行為研修受講生を受け入れ研修を行った。昨年度の院内研修修了生1名がフォローアップ研修を修了し、特定看護師と承認された。県内の関係機関への募集案内配布およびホームページ掲載等、次年度の受講生確保のための広報活動を行い、令和7年度は4名(院内2名、院外2名)の受講生を受け入れる予定である。継続的な広報活動を引き続き行う。 ③院内感染症専門医及び院外講師によるセミナー、研修会を定期的に実施している。また、学生、研修医への講義及び院内外でのコンサルテーションも継続して行っている。感染症専門医取得後の医師にも、継続して指導を行っている。令和6年度は、2名が感染症専門医を取得した。上記のとおり、すべての評価指標について目標を達成しており、自己評価(Ⅲ)とした。

(参考) 評価指標達成状況

a. スキルスラボ(※)研修者数 (第4期の年度平均を年間延数17,000人以上)
(※) 医療従事者が各種シミュレーター、手技のトレーニングのための機器を用いて医療技術の練習・習得を行うための施設



b. 特定看護師(特定行為研修及びフォローアップ研修を修了した者)育成数
(第4期中に合計10名以上)

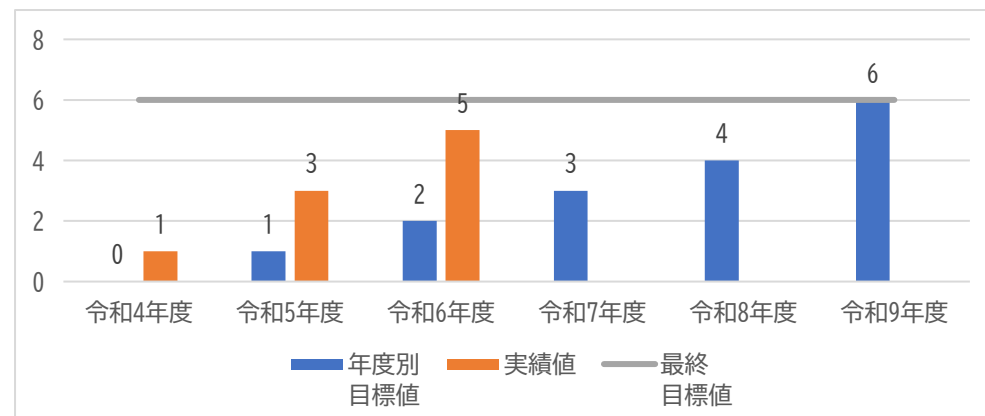


令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項 (1) 世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院) ㊹
中期計画	1-1 最新の医療に対応できる医療人を育成するために、教育・研修体制を充実させるとともに、感染症教育センターを発展させ、種々の感染症にも対応できる医療人を育成する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	①令和6年度から新たにスキルスラボの管理業務のみを担当するスキルスラボセンターを開設し、7月より専任の臨床工学技士の配置を行い、現行のシミュレータの保守点検を行うとともにラボ内で利用頻度の高いシミュレータの整備、消耗品の整理を行った。OSCE実習に併せて採血実習用シミュレータ等を複数人で使用できるように整備を行った。さらにスキルスラボ外への貸出頻度の高いシミュレータに関しても整備・管理の行いやすい様に機材庫の整備を行った。その他、小中高校生向けの医療機器体験会を開催し好評を得た。各診療科へ令和6年度の利用状況等のアンケートを実施し、利用状況により機器のレイアウトおよび令和7年度更新機器等の検討を行う。 ②令和6年度は6名（院内4名、院外2名）の特定行為研修受講生を受け入れ研修を行った。昨年度の院内研修修了生1名がフォローアップ研修を修了し、特定看護師と承認された。県内の関係機関への募集案内配布およびホームページ掲載等、次年度の受講生確保のための広報活動を行い、令和7年度は4名（院内2名、院外2名）の受講生を受け入れる予定である。継続的な広報活動を引き続き行う。 ③院内感染症専門医及び院外講師によるセミナー、研修会を定期的実施している。また、学生、研修医への講義及び院内外でのコンサルテーションも継続して行っている。感染症専門医取得後の医師にも、継続して指導を行っている。令和6年度は、2名が感染症専門医を取得した。上記のとおり、すべての評価指標について目標を達成しており、自己評価（Ⅲ）とした。

(参考) 評価指標達成状況

c. 感染症分野専門の医療人（医師・看護師等）育成数 （第4期中に合計6名以上）

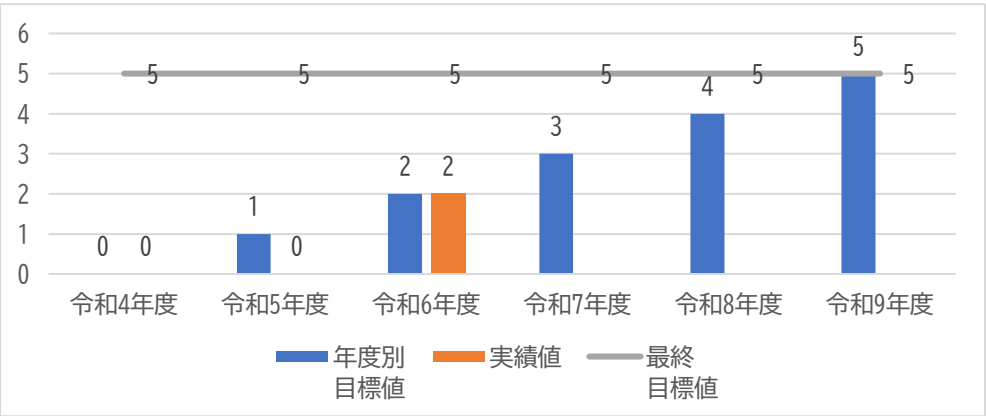


令和6年度 自己点検・評価結果について

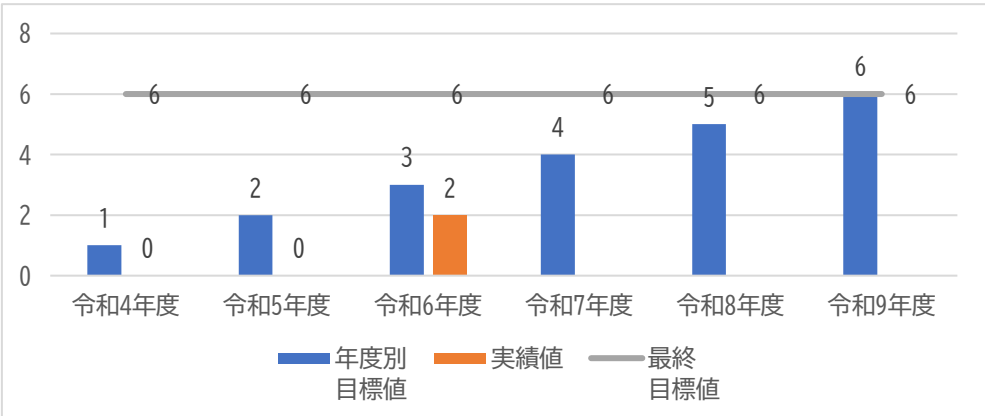
中期目標	4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項 (1) 世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院) ㊟
中期計画	1-2 ドクターヘリなどを活用した地域救急医療体制の構築を図るとともに、香川県と連携したがんゲノム診療や高度周産期医療の診療体制を強化し、最善かつ最新の高度医療を提供する。
令和6年度自己判定	(Ⅱ) 計画を十分には実施していない
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	①令和6年度の香川県でのドクターヘリ要請は432件で昨年度よりも35件増加しており、そのうち、香川大学へのドクターヘリ要請は207件で昨年度よりも10件増加している。なお、当院は基地病院としてドクターヘリ要請に応需するだけでなく、他基地病院からの搬送依頼に対しても積極的に応需するなど、香川県の救急医療に大きく貢献している。また、今年度新たに、フライトドクター2名、フライトナース2名が承認されて業務を開始しており、フライトドクター0JT4名及びフライトナース0JT3名の研修を行なっている。 ②がんゲノムプロファイリング検査に関するエキスパートパネルについて、年間件数は114件であった。紹介患者数を増やすための啓発活動として、県内の医師会等を訪問して、講演を行っている。また、病院運営委員会でエキスパートパネル症例数増加に向け、「がんゲノム他科依頼」の案内等、がんゲノム医療に関する説明を行った。令和7年4月以降で造血器腫瘍遺伝子パネル検査「ヘムサイト」の運用を開始する予定であり、症例数増加が見込まれる。 ③令和5年5月以降、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したのちも、散発的な感染妊婦の入院、分娩の対応時に対しiCTGを活用した。現状では感染妊婦および感染を危惧する妊婦も減少したため、全体の必要数は減少傾向にある。しかしながら、コロナウイルスが完全に収束している訳ではなく、医療者の感染予防の目的に遠隔診断が必要な妊婦もあり、こういった妊婦に対しiCTGを活用した。また、JICAの活動である遠隔医療の体制構築を通じた母子保健強化プロジェクトに参加し、ブータン王国でのiCTG普及に関する研修会に参加し遠隔医療の推進を行っている。同時にミクロネシア諸島での利用促進についても推進している以上のとおり、年度計画達成に向けた取り組みを適切に行っているが、20-2bの指標について、ロードマップを達成していないことから、自己評価(Ⅱ)とした。

(参考) 評価指標達成状況

a-1. フライトドクター育成数 (第4期中にフライトドクター合計5名)



a-2. フライトナース育成数 (第4期中にフライトナース合計6名)

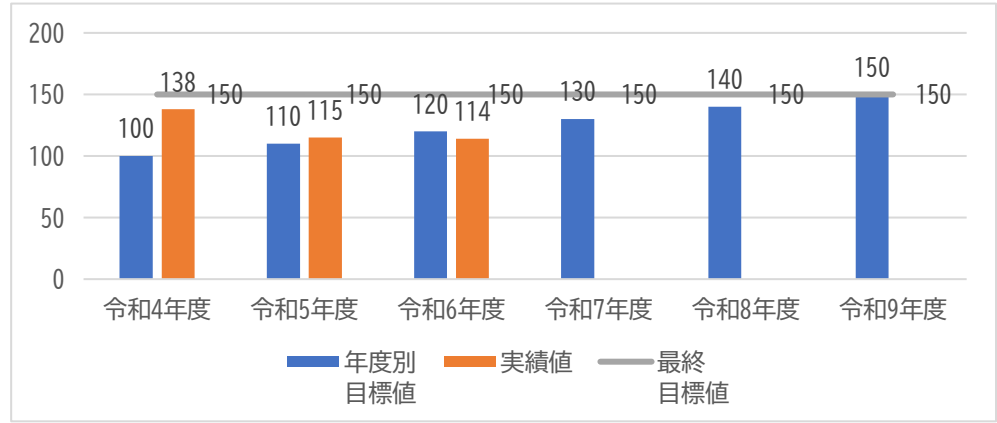


令和6年度 自己点検・評価結果について

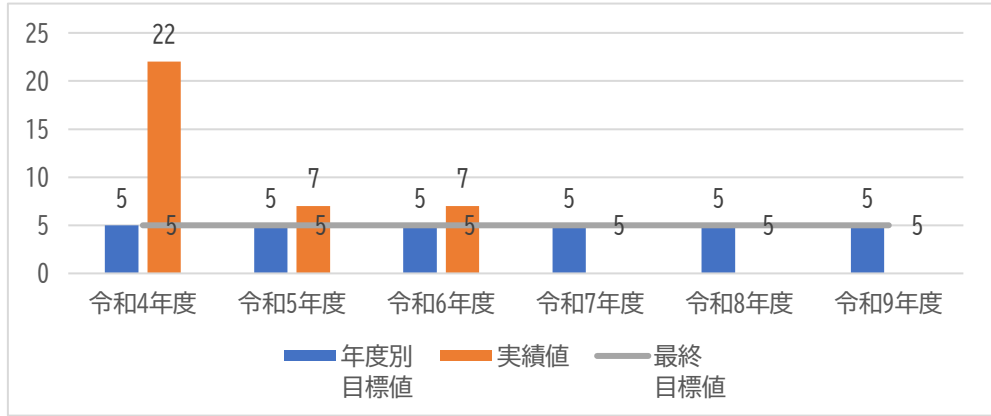
中期目標	4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項 (1) 世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院) ㊟
中期計画	1-2 ドクターヘリなどを活用した地域救急医療体制の構築を図るとともに、香川県と連携したがんゲノム診療や高度周産期医療の診療体制を強化し、最善かつ最新の高度医療を提供する。
令和6年度自己判定	(Ⅱ) 計画を十分には実施していない
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	①令和6年度の香川県でのドクターヘリ要請は432件で昨年度よりも35件増加しており、そのうち、香川大学へのドクターヘリ要請は207件で昨年度よりも10件増加している。なお、当院は基地病院としてドクターヘリ要請に応需するだけでなく、他基地病院からの搬送依頼に対しても積極的に応需するなど、香川県の救急医療に大きく貢献している。また、今年度新たに、フライトドクター2名、フライトナース2名が承認されて業務を開始しており、フライトドクター0JT4名及びフライトナース0JT3名の研修を行なっている。 ②がんゲノムプロファイリング検査に関するエキスパートパネルについて、年間件数は114件であった。紹介患者数を増やすための啓発活動として、県内の医師会等を訪問して、講演を行っている。また、病院運営委員会でエキスパートパネル症例数増加に向け、「がんゲノム他科依頼」の案内等、がんゲノム医療に関する説明を行った。令和7年4月以降で造血器腫瘍遺伝子パネル検査「ヘムサイト」の運用を開始する予定であり、症例数増加が見込まれる。 ③令和5年5月以降、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したのちも、散発的な感染妊婦の入院、分娩の対応時に対しiCTGを活用した。現状では感染妊婦および感染を危惧する妊婦も減少したため、全体の必要数は減少傾向にある。しかしながら、コロナウイルスが完全に収束している訳ではなく、医療者の感染予防の目的に遠隔診断が必要な妊婦もあり、こういった妊婦に対しiCTGを活用した。また、JICAの活動である遠隔医療の体制構築を通じた母子保健強化プロジェクトに参加し、ブータン王国でのiCTG普及に関する研修会に参加し遠隔医療の推進を行っている。同時にミクロネシア諸島での利用促進についても推進している以上のとおり、年度計画達成に向けた取り組みを適切に行っているが、20-2bの指標について、ロードマップを達成していないことから、自己評価(Ⅱ)とした。

(参考) 評価指標達成状況

b. がんゲノムプロファイリング検査(※1)に関するエキスパートパネル(※2)件数 (年間150件以上 第4期末)
(※1) がんに関連する遺伝子の変化を複数同時に測定する検査
(※2) 検査の結果、検出された遺伝子変異に対する生物学的意義付けや対応する薬剤の有無、さらには推奨すべき薬剤や臨床試験の順位付け等を検討するための専門家会議



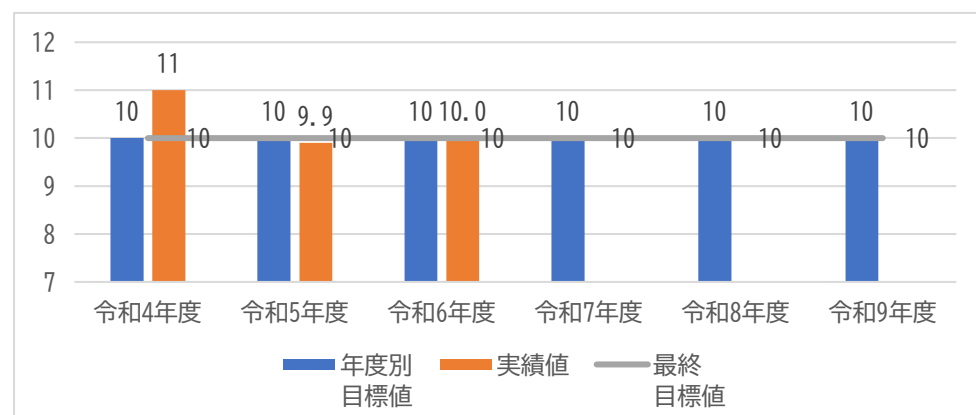
c. 分娩監視装置iCTGによる妊婦健診件数 (第4期の年度平均を5件以上)



令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項 (1) 世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院) ②
中期計画	1－3 医療安全に関する教育体制をさらに充実させ医療人としてリスク管理意識を高め、患者安全の医療を提供する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	①毎月の医療安全管理部員会議、医療安全管理委員会、リスクマネジャー会議において、インシデントレポート総数に対する医師からの報告件数割合の検証を行い、報告数が増加するように周知を行っている。報告件数全体はR6年度は3220件（前年度3005件）で215件増加していた。医師の報告件数は323件（前年度297件）となっており、R6年度の割合は10.0%となっていた。全体の報告件数が増加しているが、医師の報告件数も増加していた。また、研修医からの報告件数もR5年度は5件であったが、今年度は10件と増加していた。全職員のインシデント報告に対する意識が高まってきていると考えられる。 ②医学科で実施している医療安全に関する授業は、シラバス中に【医療安全シリーズ】と明記しており、医療安全に関わる授業が明確化されている。このシラバスをもとに医学科授業を実施し、精査を行い、学年進行に応じた医療安全の内容について改善を行った。看護学科も医療安全に関わる授業について精査を行い、学年進行に応じた医療安全の内容について改善を行った。なお、シラバスは医学部ホームページに公開するとともに、医療安全管理部と情報共有している。 上記のとおり、すべての評価指標について目標を達成しており、自己評価（Ⅲ）とした。

(参考) 評価指標達成状況

a. インシデントレポート件数における医師からの報告割合
(第4期の年度平均を10%以上)

b. 令和4年度から医療安全に関する卒前教育の内容について、病院の医療安全管理部、医学教育学講座等が情報共有を行い、系統立てた医療安全に関する講義を実施する。令和5年度以降は前年度の問題点等を整理し、改善を行う。

(令和6年度 実施内容)

医学科で実施している医療安全に関する授業は、シラバス中に【医療安全シリーズ】と明記しており、医療安全に関わる授業が明確化されている。このシラバスをもとに医学科授業を実施し、精査を行い、学年進行に応じた医療安全の内容について改善を行った。看護学科も医療安全に関わる授業について精査を行い、学年進行に応じた医療安全の内容について改善を行った。なお、シラバスは医学部ホームページに公開するとともに、医療安全管理部と情報共有している。

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する事項 (1) 内部統制機能を実質化させるための措置や外部の知見を法人経営に生かすための仕組みの構築、学内外の専門的知見を有する者の法人経営への参画の推進等により、学長のリーダーシップのもとで、強靱なガバナンス体制を構築する。②
中期計画	1-1 産業界、地方自治体、外部の教育研究機関等における外部有識者から成る諮問会議を組織し、学外の視点を積極的に法人経営に取り込む。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	令和6年7月25日に第3回国立大学法人香川大学諮問会議を実施し、聴取した意見は評価報告書にまとめ大学HPで公開しており、十分に計画を達成した。次年度は第3回諮問会議で出た委員からの意見を反映させ、令和7年7月に第4回目の諮問会議の実施する予定としている。引き続き学長のリーダーシップのもと、強靱なガバナンス体制の構築に努める。

(参考) 評価指標達成状況

a. 令和4年度に設置する諮問会議において、毎年度、法人経営上の課題に対する意見を聴取し、その反映状況を公表する。

(令和6年度 実施内容)

令和6年7月25日に第3回国立大学法人香川大学諮問会議を実施し、各委員に対し、学長が諮問する事項とその内容の概略について説明を行い、意見交換を行った。意見交換の結果は、評価報告書の形式に取りまとめ、大学HP上で公開を行った。

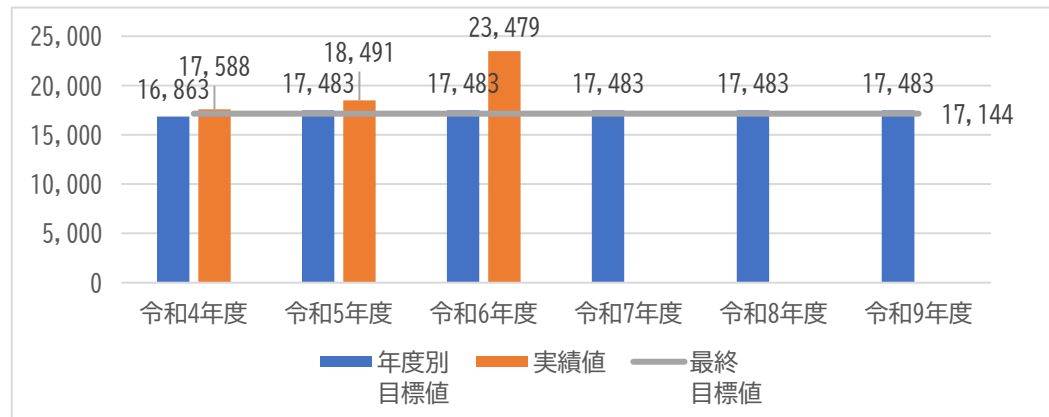
なお、本会議において、教育研究活動等の自己点検・評価における判定基準について、「改善を要する点」として指摘を受けたため、本学における自己点検・評価の評価区分等を見直した。令和6年度以降、新しい評価区分等により自己点検・評価を行う。

令和6年度 自己点検・評価結果について

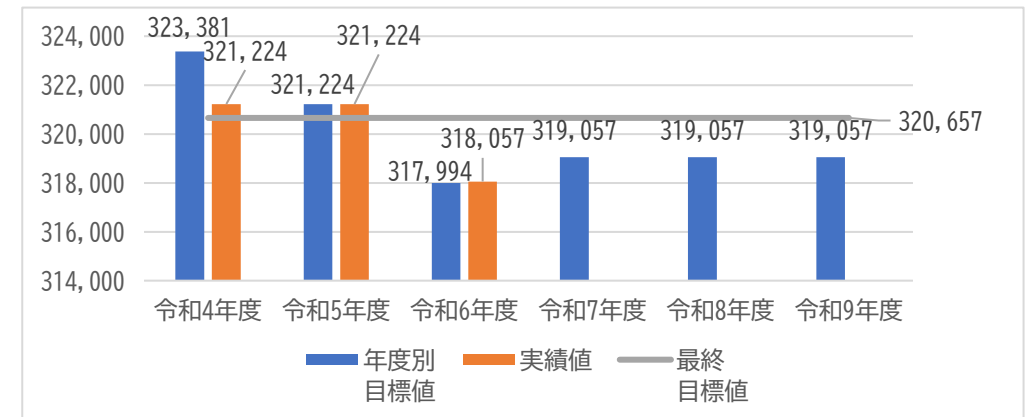
中期目標	Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する事項 (2) 大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。㉒
中期計画	2-1 大学が保有するスペースの適切な再配分や集約化などを行い、地域・社会等に貢献する機能強化を行うため、共用スペースを拡充するとともに、利用率の低い施設の用途変更や用途廃止など、保有する建物の総面積の抑制を進め、施設の有効活用を推進する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	中期計画に掲げる共用スペースの拡充は目標を上回り達成しており、保有する建物の総面積の抑制は目標を達成する見込みである。

(参考) 評価指標達成状況

a. 共用スペース面積の増加 (令和9年度の実績を令和3年度末実績(16,173㎡)と比べて6%以上増加)



b. 保有面積の縮減 (令和9年度の実績を令和3年度末実績(323,896㎡)と比べて1%以上縮減)



令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する事項 (2) 大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。㉒
中期計画	2-2 地域・社会等に貢献する機能強化を行うため、全学的なマネジメントによる産官学の共創拠点となるキャンパス整備、ICT環境の拡充、老朽化した施設の改善整備など、戦略的な施設及び設備整備を実施する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	中期計画に掲げる産官学の共創拠点となるキャンパス整備、ICT環境の拡充及び老朽化した施設の改善整備（老朽化設備）はR6年度の目標を達成しており、老朽化した施設の改善整備（老朽化建物）はR6年度の目標を上回り達成している。

(参考) 評価指標達成状況

a. 全学的共創拠点（イノベーションデザイン研究所、情報メディアセンター）の整備を行う。

○イノベーションデザイン研究所

・令和3年度末に施設整備が完了し、令和4～6年度に設備整備を実施する。

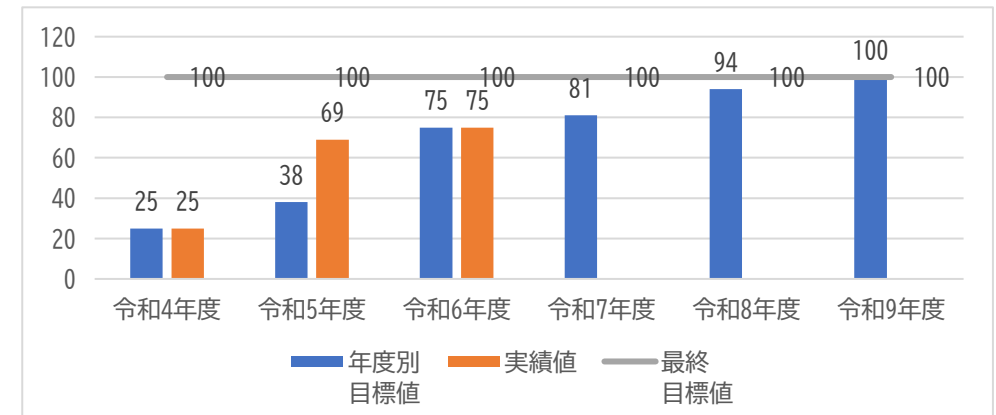
○情報メディアセンター

・令和4～5年度に施設整備、令和6年度に設備整備を実施する。

(令和6年度 実施内容)

R6年度に予定していたイノベーションデザイン研究所及び情報メディアセンターの設備整備をR4年度に前倒し実施したため、R6年度の目標を達成している。

b. ICT環境の拡充を要する講義室の整備率（令和3年度時点で未整備の講義室(14室)を令和9年度末時点で100%整備）

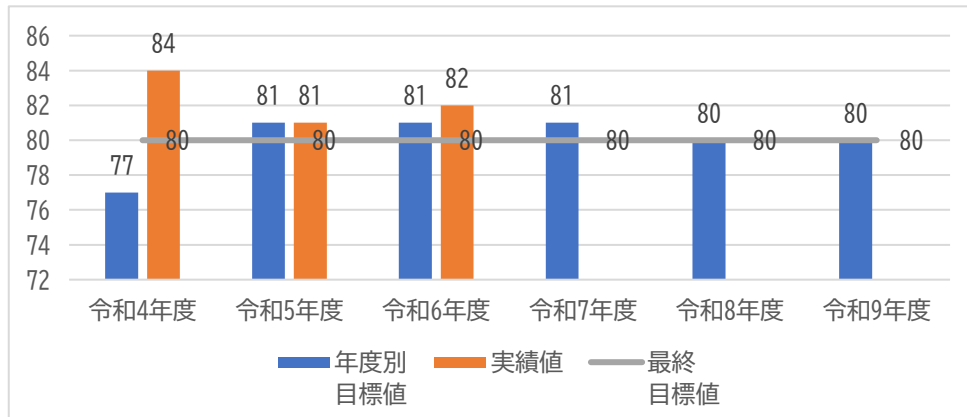


令和6年度 自己点検・評価結果について

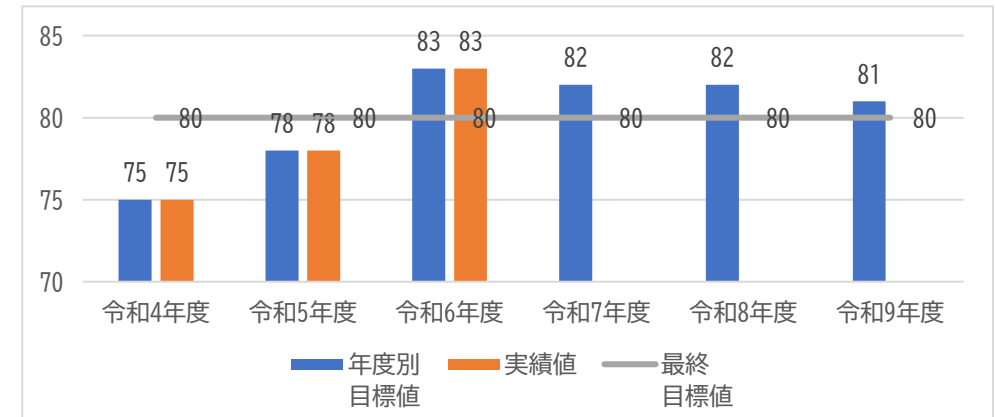
中期目標	Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する事項 (2) 大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。㊹
中期計画	2-2 地域・社会等に貢献する機能強化を行うため、全学的なマネジメントによる産官学の共創拠点となるキャンパス整備、ICT環境の拡充、老朽化した施設の改善整備など、戦略的な施設及び設備整備を実施する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	中期計画に掲げる産官学の共創拠点となるキャンパス整備、ICT環境の拡充及び老朽化した施設の改善整備（老朽化設備）はR6年度の目標を達成しており、老朽化した施設の改善整備（老朽化建物）はR6年度の目標を上回り達成している。

(参考) 評価指標達成状況

c. 老朽化建物（経過年数50年超）の改善整備率（令和9年度末時点で80%以上）



d. 主要4団地（幸町・林町・三木町医学部・三木町農学部）の老朽化設備（経過年数30年超の給排水・電気等の配管・配線）の改善整備率（令和9年度末時点で80%以上）



令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	Ⅲ 財務内容の改善に関する事項 (1) 公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。㉓
中期計画	1-1 安定した財務基盤の確立のため、外部資金等の受入れの拡大や保有資産の有効活用などによる財源の多元化を進める。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	・外部資金の獲得状況については、各課で定めたロードマップに沿って実施が行えている。地域連携推進課の「学術貢献費」を受入可能にする制度の見直しについて、学内協議調整を行い大学の制度として整える準備を進めている。 ・財産貸付料・手数料収入の増については、附属病院における福利厚生施設等の定期借地権設定契約等により、令和6年度においても27,720万円の収入があった。また、講義室等短期貸付料単価を見直したことにより、令和4年度と比較し、講義室等短期貸付料収入が約432万円の収入増となっている。

(参考) 評価指標達成状況

a. 外部資金の獲得状況について、毎年度、外部の有識者から意見を聴取し、評価結果を公表する。

(令和6年度 実施内容)

【研究協力課】

科研費申請に関する説明会、申請書のブラッシュアップ(98件)を行い、39件採択された。そのうち基盤Cは27件採択され採択率は42.9%(令和6年度22.8%)であり、若手研究は9件採択され採択率は45%(令和6年度36.8%)であった。また、学長戦略経費において、科研費基盤B以上の獲得強化のための研究推進事業「基盤Bチャレンジ次年度支援」を2件採択した。さらに、「基盤Bチャレンジ次年度支援」採択者、研究推進事業採択者の希望者、医学部・創造工学部・農学部の理系3学部から推薦のあった者、計15人を対象に、ロバスト・ジャパン㈱の科研費申請書レビュー支援を行い、4名が科研費に採択された。

外部資金の獲得強化に向けた取組の結果、令和7年度の科研費は新規・継続合わせて348件、495,885千円で、前年度から9件の増加、20,930千円の増加となった(新規は16件増加、6,760千円減少。継続は7件減少、27,690千円増加)。

【地域連携推進課】

産学連携・知的財産センターで、「学術貢献費」導入に向け検討を進めている。先行実施している他大学や、中四国等の大学での導入状況調査を行うとともに、学内協議調整を行い大学の制度として整える準備を進めている。

【財務企画課】

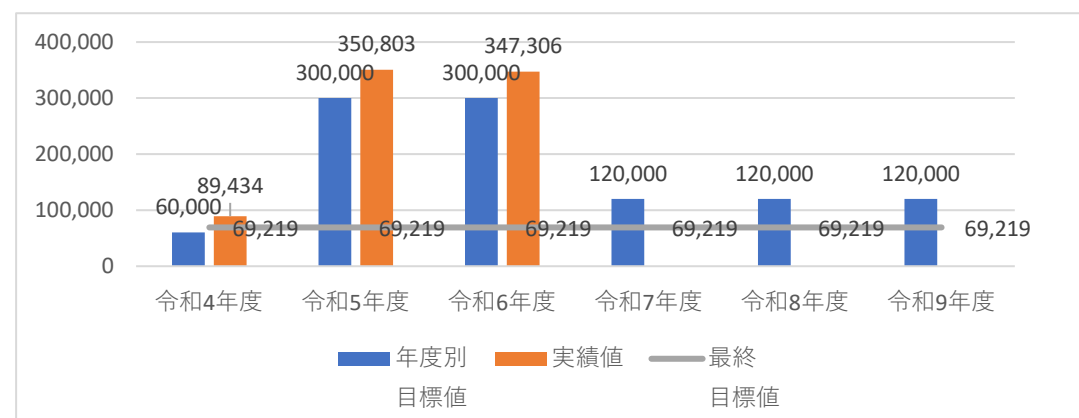
外部資金獲得を推進するため、令和6年度当初予算において、学部等の教育研究活動の成果を予算に反映させるため、活動実績に基づく運営費配分制度の評価指標に沿って予算配分を実施した。令和6年度は、学部等の運営費配分に係る評価配分率を「80～120%」から「75～125%」に変更し、メリハリのある配分を行った。

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	Ⅲ 財務内容の改善に関する事項 (1) 公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。㉓
中期計画	1-1 安定した財務基盤の確立のため、外部資金等の受入れの拡大や保有資産の有効活用などによる財源の多元化を進める。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	・外部資金の獲得状況については、各課で定めたロードマップに沿って実施が行えている。地域連携推進課の「学術貢献費」を受入可能にする制度の見直しについて、学内協議調整を行い大学の制度として整える準備を進めている。 ・財産貸付料・手数料収入の増については、附属病院における福利厚生施設等の定期借地権設定契約等により、令和6年度においても27,720万円の収入があった。また、講義室等短期貸付料単価を見直したことにより、令和4年度と比較し、講義室等短期貸付料収入が約432万円の収入増となっている。

(参考) 評価指標達成状況

b. 財産貸付料・手数料収入の増 (令和9年度の実績を第3期平均と比べて20%以上増加)

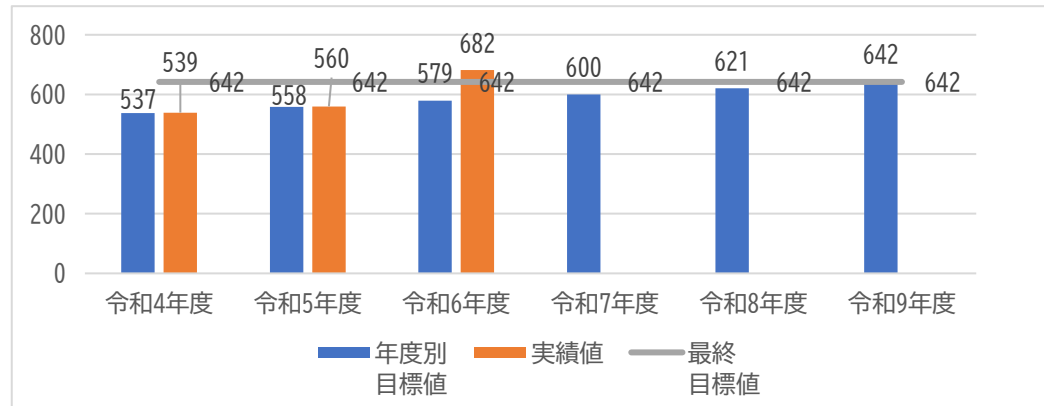


令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	Ⅲ 財務内容の改善に関する事項 (1) 公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。㉓
中期計画	1-2 学長のリーダーシップのもと、学長戦略経費を増加させることなどにより、機能強化や組織改革等の取組を戦略的かつ効果的に推進するための資源配分の仕組みを構築する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	学長戦略経費のうち、第4期中期目標・中期計画推進事業として特定した取組については、学長を含めた役員等によるヒヤリングを実施し、その進捗状況等を確認した上で、予算を配分した。

(参考) 評価指標達成状況

a. 学長戦略経費の増 (令和9年度の実績を令和3年度実績と比べて30%以上増加)



令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項 (1) 外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。㉔
中期計画	1-1 中期計画の進捗状況、評価指標の達成状況等について、客観的なデータに基づき自己点検・評価するとともに、外部の意見を取り入れた評価結果を公表する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	令和5年度の実績について、自己点検・評価を着実に実施するとともに、外部評価として「国立大学法人香川大学諮問会議」においても、自己点検・評価結果について検証を実施している。また、それぞれ評価結果等について外部への公表を実施している。

(参考) 評価指標達成状況

a. 中期計画の達成状況の自己点検・評価を毎年度実施し、評価結果や改善状況等を公表する。

b. 外部評価を実施し、評価結果及び評価結果の反映状況等の公表を行う。

(令和6年度 実施内容)

中期計画に係る評価指標及びロードマップに係る進捗状況点検結果について、大学評価委員会での当該点検結果の検証等を実施し、評価結果の確定を行った。併せて、当該結果をホームページで公表している。

(令和6年度 実施内容)

「国立大学法人香川大学諮問会議」において、自己点検・評価の結果を基に、中期計画の進捗状況の検証を行った。また、諮問会議にて、委員等よりいただいた意見等をとりまとめ、評価報告書として各担当部局へ共有し、適宜改善を実施している。評価報告書については外部評価結果として、ホームページで公表している。

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項 (1) 外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。㉔
中期計画	1－2 デジタルONE戦略に基づき、学内の情報を集約し、データベース化することで、ステークホルダーに積極的に情報を発信するとともに、双方向の対話を行う。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	a. 令和4年度に情報共有方法の見直しを行い、学内における情報発信に関する統ルールを整理・策定した。これに基づき、プレスリリースやテレビ・ラジオ・新聞等の報道情報を集約するデータベースを構築・運用しており、現在も日々情報の蓄積を継続している。 学内の注目されている出来事や人物を迅速に検索できるよう、プレスリリースや報道情報を集約したデータベースを活用している。これにより、記者等外部からの照会対応や、広報誌等における取材対象の選定に役立てている。また、データベースや情報入力フォームに容易にアクセスできるポータルサイトを作成し、学内周知することにより、全学で利活用できる体制を整備した。さらに、本データベースは「D i g i -ONE」とも連携しており、報道情報をカレンダー形式でタイムリーに学内共有するための情報源としても活用している。 b. 令和4年度に構築・導入した広報誌、ホームページ、SNS等の各種広報媒体に対するモニター制度に基づき、今年度も新たに、年代・居住地・職業等の属性が多様なモニターを募集し、2回のアンケート調査を実施し、各広報媒体の評価、改善点等に関する意見を収集した。 また、令和5年度に実施した2回のアンケートの回答と、広報課及び各部局から挙げられた対応を取りまとめ、ホームページで公表した。

(参考) 評価指標達成状況

a. 令和4年度に情報発信に関する学内統ルールを整理・策定し、令和5年度に学内の情報を集約するデータベースの整備を行う。令和6年度からデータベースを活用した情報発信を行う。

b. 令和4年度にモニター制度を構築・導入し、令和5年度から毎年度モニターからの意見と対応を公表する。

(令和6年度 実施内容)

令和4年度に情報共有方法の見直しを行い、学内における情報発信に関する統ルールを整理・策定した。これに基づき、プレスリリースやテレビ・ラジオ・新聞等の報道情報を集約するデータベースを構築・運用しており、現在も日々情報の蓄積を継続している。

学内の注目されている出来事や人物を迅速に検索できるよう、プレスリリースや報道情報を集約したデータベースを活用している。これにより、記者等外部からの照会対応や、広報誌等における取材対象の選定に役立てている。また、データベースや情報入力フォームに容易にアクセスできるポータルサイトを作成し、学内周知することにより、全学で利活用できる体制を整備した。
さらに、本データベースは「D i g i -ONE」とも連携しており、報道情報をカレンダー形式でタイムリーに学内共有するための情報源としても活用している。

(令和6年度 実施内容)

令和4年度に構築・導入した広報誌、ホームページ、SNS等の各種広報媒体に対するモニター制度に基づき、今年度も新たに、年代・居住地・職業等の属性が多様なモニターを募集し、2回のアンケート調査を実施し、各広報媒体の評価、改善点等に関する意見を収集した。

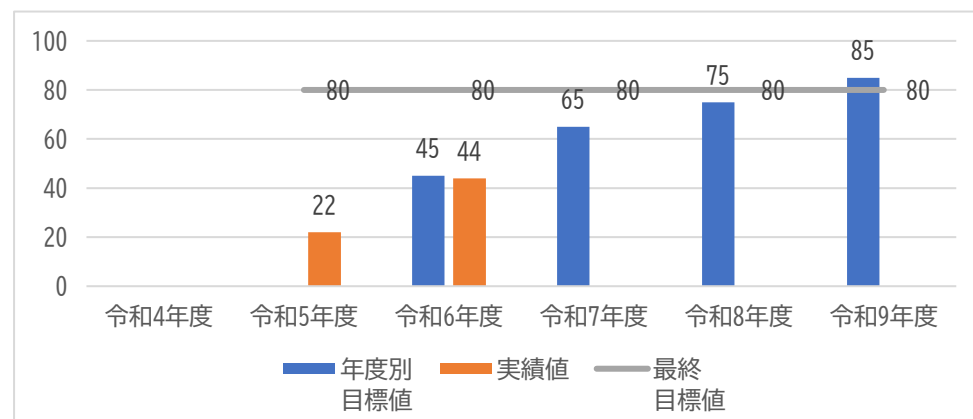
また、令和5年度に実施した2回のアンケートの回答と、広報課及び各部局から挙げられた対応を取りまとめ、ホームページで公表した。

令和6年度 自己点検・評価結果について

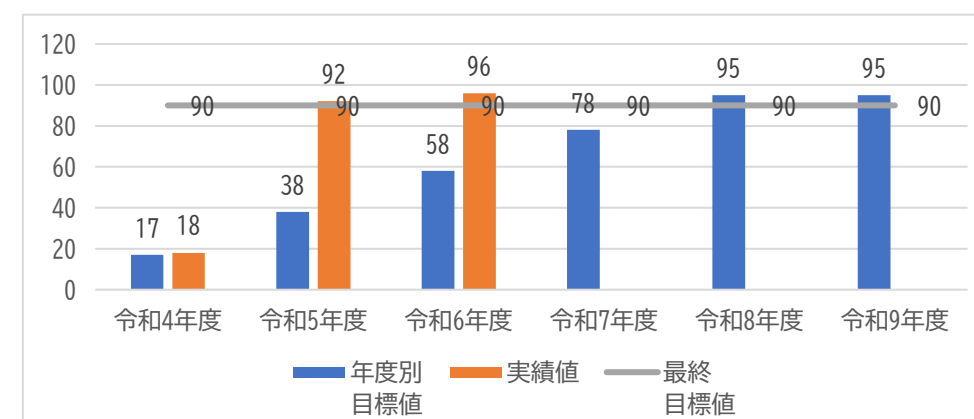
中期目標	V その他業務運営に関する重要事項 (1) AI・RPA (Robotic Process Automation) をはじめとしたデジタル技術の活用や、マイナンバーカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。㊫
中期計画	1-1 デジタルONE戦略に基づく教職員及び学生の協働による大学業務のICT化・DX化を通じ、業務効率化、セキュリティ強化を行い、平時のみならず大規模災害などの非常時においても、教職員や学生の活動が安全かつ速やかに進められるよう業務運営体制の継続性を強化する。
令和6年度自己判定	(II) 計画を十分には実施していない
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	a 重複での推薦者が多かったこともあり、R6年度は年度目標に若干及ばなかったが、R7年度は100人超の新規のアンバサダーを任命しており、任命率70%超を達成する見込みである。 b. 本学でアカウントを発行しているユーザが本学で提供するサービスへログインする際の多要素認証の実施率 (令和9年度末時点で90%以上) c. 大学全体の教育、研究及び事務業務で利用するシステムのクラウド化率 (令和9年度末時点で80%以上) 概ね順調に進捗しており、概ねKPIを達成している。

(参考) 評価指標達成状況

a. 常勤事務職員(一般職員Ⅰ)のうち、DX推進担当(デジタルONEアンバサダー)の経験を有する者の割合が80%以上



b. 本学でアカウントを発行しているユーザが本学で提供するサービスへログインする際の多要素認証の実施率 (令和9年度末時点で90%以上)



※令和6年度より評価指標変更

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	V その他業務運営に関する重要事項 (1) AI・RPA (Robotic Process Automation) をはじめとしたデジタル技術の活用や、マイナンバーカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。㊥
中期計画	1-1 デジタルONE戦略に基づく教職員及び学生の協働による大学業務のICT化・DX化を通じ、業務効率化、セキュリティ強化を行い、平時のみならず大規模災害などの非常時においても、教職員や学生の活動が安全かつ速やかに進められるよう業務運営体制の継続性を強化する。
令和6年度自己判定	(II) 計画を十分には実施していない
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	a 重複での推薦者が多かったこともあり、R6年度は年度目標に若干及ばなかったが、R7年度は100人超の新規のアンバサダーを任命しており、任命率70%超を達成する見込みである。 b. 本学でアカウントを発行しているユーザが本学で提供するサービスへログインする際の多要素認証の実施率 (令和9年度末時点で90%以上) c. 大学全体の教育、研究及び事務業務で利用するシステムのクラウド化率 (令和9年度末時点で80%以上) 概ね順調に進捗しており、概ねKPIを達成している。

(参考) 評価指標達成状況

c. 大学全体の教育、研究及び事務業務で利用するシステムのクラウド化率 (令和9年度末時点で80%以上)

